

松林語におけるチベット系借用語の性質について

鈴木博之

minibutasan [at] gmail.com

キーワード：松林語 カムチベット語 語彙形式 音対応 方言学

要旨

中国チベット自治区察隅県で話される松林語は、最近の研究によって非チベット系の独立したチベット・ビルマ系言語と認められたもので、その語彙には多くのチベット系借用語が存在する。本稿では、先行研究が記述する語彙資料を用いて、チベット系借用語の音形および語形について考察する。本稿の目的は、同借用語について、松林語とチベット文語形式の間に認められる対応関係を明らかにし、その音形と対応するチベット系口語がどのようなものであるかを分析して、その異同から借用元や語彙層について区分可能かを検証することにある。その結果、松林語のチベット系借用語は現在記録されているチベット系諸言語の1変種に完全に対応するものがない一方、複数の音的・形態論的特徴の共通性に基づいてカムチベット語諸方言との借用関係を認めた。

1. はじめに

中国チベット自治区林芝市察隅県上察隅鎮で話される松林語は、宋成 等(2019)によってはじめてまとまった記述が提出された。それによって、松林語がチベット系諸言語（中国における認識では「チベット語方言」）とは異なった言語で、かつチベット・ビルマ語派に属する言語であることが分かった。しかしながら、同書の書評である鈴木(2023b)にも言及があるように、松林語が非チベット系であることには同意できる一方で、チベット・ビルマ語派の中でどのように位置づけられるかは未だ結論が出ておらず、さらなる研究が必要である。

一方で、松林語が非チベット系と認定されるならば、松林語に認められるチベット文語形式（以下「蔵文」）と対応関係を持つ語形式は、チベット系借用語と考えてよい。同言語の話される地域を文化圏の観点から見れば、チベット文化圏に属しているのは明らかである。このため、チベット系借用語の受容が広くかつ深く行われていると考えるのは妥当である¹。

本稿は、松林語におけるチベット系借用語について、松林語とチベット文語形式の間に認められる対応関係を明らかにし、その音形と対応するチベット系口語がどのようなものであるかを分析して、その異同から借用元や語彙層について区分可能かを検証する。議論に際し、松林

¹ 松林語の近隣に分布する諸言語、たとえばイドゥ語（江荻 2005）、セク語（Tashi Nyima and Suzuki 2019）、クマン語（李大勤 2002）、ザクリン語（劉潔 2021）にもチベット系借用語が見られるが、その割合は松林語と比べれば少ないと見積もられる。

語の資料を全面的に宋成 等(2019)に依拠する一方、チベット系諸言語の資料を筆者の一次資料に基づいて考察を進める。まず、宋成 等(2019:61-114)の語彙資料を対象とし、チベット系借用語と認められる語形式を選び出す。同源語と考えるのが適切な場合は、以下の議論から除く。また、できる限り動詞は含めない。これはチベット系諸言語において動詞は形態変化を伴い、借用元の形式が一義的に定まらないためである。ただし、音形に十分な注意を払って議論に含める場合もある。議論の方法は、チベット言語学の方法論に従い、初頭子音部と母音+末子音部に分け、チベット系諸言語の1変種を記述するときと同様に蔵文との対応関係を整理していく。察隅県のカムチベット語 Tshawarong 方言の分析には、鈴木(2021a)がある。加えて、鈴木(2012a)の記述するミャンマーで話されるカムチベット語 Sangdam 方言も、察隅県で話される方言と関係があるとされる。これらの記述には、それぞれ口語形式と蔵文の対応関係が分析されており、そこで注目されている特徴に留意して考察を進める。

なお、宋成 等(2019:18-33)による松林語の音体系および表記に用いられる音標文字は次のようである。子音 : /ph, p, b, th, t, d, th, t, d, ch, c, j, kh, k, g, tsh, ts, dz, tsh, tɕ, dz, tɕ, te, dz, s, z, ʂ, z, ɕ, e, z, h, m, m̥, n, n̥, ŋ, ŋ̥, l, l̥, w, j/ ; 母音 : /i, e, ε, a, o, u, u, y, ø, ə, ɣ, ʉ/ ; 超分節音素 : 55, 24, 31。ただし、語彙表の一部は音声事実に基づいて異なる表記を適用している。本稿では、音標文字 g を一律 g とする点を除いて、宋成 等(2019)の記載に従う²。

2. チベット系借用語の蔵文との音対応

本節では、松林語におけるチベット系借用語の語形に対応する蔵文形式について、初頭子音部 (2.1) と母音+末子音部 (2.2) に分けて考察する。蔵文は de Nebesky-Wojkowitz (1956)の方法で転写する。蔵文自体が表しうる音価については、格桑居冕、格桑央京(2004)を参照。

2.1. 初頭子音部の音対応

ここでは、松林語におけるチベット系借用語の初頭子音部の特徴について分析する。以下、次の8つの特徴について見ていく：蔵文阻害音字に対応する有声性 (表1)、蔵文 K 類 T 類の調音位置 (表2)、蔵文 Ky 類、Py 類の音対応 (表3)、蔵文 Kr 類、Pr 類³の音対応 (表4)、蔵文鼻音字類の音対応 (表5)、蔵文前接字 m, 'の音対応 (表6)、蔵文 l の音対応 (表7)、蔵文 y の音対応 (表8)。これらの基準は、カムチベット語諸方言の記述研究におけるチベット文語形式との対応関係を明らかにする作業において頻繁に採用されている項目である⁴。

² 宋成 等(2019)は、国際音声字母 (IPA) に登録がない一方中国で用いられる音標文字 (中国ではしかしながら「国際音標」と呼ばれる) を用いている。特に前部硬口蓋閉鎖音・共鳴音については $t d ŋ$ が含まれ、松林語には前3者が用いられている。これらの調音位置には明確な定義がある (朱曉農 2010:17-21 参照)。チベット系諸言語の研究でも、その必要性が議論されている (Suzuki 2016)。

³ ここでいう蔵文 K, T, Kr, Pr, Ky, Py 対応形式とは、次のようである。蔵文 K とは基字 k, kh, g に足字が伴わない全ての対応形式についていい、蔵文 T とは基字 t, th, d に足字が伴わない全ての対応形式についていい、蔵文 Ky とは基字 k, kh, g に足字 y を伴う形式を含む全ての対応形式についていい、蔵文 Py とは基字 p, ph, b に足字 y を伴う形式を含む全ての対応形式についていい、蔵文 Kr とは基字 k, kh, g に足字 r を伴う形式を含む全ての対応形式についていい、蔵文 Pr とは基字 p, ph, b に足字 r を伴う形式を含む全ての対応形式についていい。

⁴ チベット系諸言語の記述研究においては、口語形式と蔵文との対応という歴史言語学的な視点もあわせて記

蔵文阻害音字に対応する有声性の現れは、閉鎖・破擦音と摩擦音で異なる。閉鎖・破擦音字の場合、原則的に先行子音字をもたない有声音字は無声音、先行子音字がある場合は有声音が対応する。一方、表1の「にんにく」のように、先行子音字がある有声音字でも無声音が対応する例がある。そのほか、語中に来る「鏡」のような例の場合、無声音が対応することある。摩擦音の場合、有声音字は先行子音字の有無にかかわらず有声音が対応する。

表 1. 蔵文阻害音字に対応する有声性

語義	松林語	蔵文形式
価格	kəŋ ²⁴	gong
きつい	tɛn ²⁴	dam
すす	du ⁵⁵ sɥ ⁵⁵	rdo sol
蛙	bi ³¹ pa ⁵⁵	sbal pa
獣の爪	dʑɛ ⁵⁵ mu ⁵⁵	sder mo
火薬	dzi ⁵⁵	rdzas
にんにく	ko ³¹ pa ⁵⁵	sgog pa
鏡	ei ⁵⁵ ku ⁵⁵	shel sgo
露	zi ³¹ tehou ⁵⁵	zil chu
身体	zu ³¹ pu ⁵⁵	gzugs po
錫	za ³¹ ŋi ⁵⁵	zha nye
政府	se ⁵⁵ zoŋ ⁵⁵	srid gzhung

続いて、蔵文 K 類と T 類の中で足字を伴わない場合の対応する初頭子音の調音位置について見てみたい。蔵文 T 類については、表 1 に挙がっている例にも認められるように、前部硬口蓋閉鎖音または歯茎閉鎖音に対応する。同様に、蔵文 K 類は硬口蓋閉鎖音または軟口蓋閉鎖音に対応する。これを表 2 にまとめる。

表 2. 蔵文 K 類、T 類に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
星	ka ⁵⁵ ma ⁵⁵	skar ma
鞍	ga ⁵⁵	sga
糸	cy ⁵⁵ pa ⁵⁵	skud pa
冬	jø ⁵⁵ kha ⁵⁵	dgun kha

述することが通例となっている (Häsler 1999, 格桑居冕, 格桑央京 2002)。これは、チベット系諸言語の記述研究の目的が方言学的研究と重なる部分があり、その歴史的発展の面からの興味によるところが大きい。1 変種の全面的な記述研究では、蔵文のすべての組み合わせについて記述することも行われる (たとえば Häsler 1999 や邵明園 2018 など) が、特に注目すべき点に限定して記述することも可能である。本稿では後者の方法を取り、主に鈴木(2018ab, 2021a)、Toumadre and Suzuki (2023)を参照して項目を選定した。

記号	ta ²⁴	rtags
木材	doŋ ²⁴ pu ⁵⁵	sdong po
秋	ty ⁵⁵ kha ⁵⁵	ston kha
弾丸	ndʒi ⁵⁵ ngu ⁵⁵	mde'u mgo

蔵文 Ky 類と Py 類の音対応について見ると、表 3 に示すように、蔵文 Ky 類は一律前部硬口蓋破擦音と対応し、蔵文 Py 類は前部硬口蓋破擦音と対応するものが多いが、表 3 の「観音」のように一部前部硬口蓋摩擦音に対応するものがある。ただし、「夏」のように蔵文 dby には有声硬口蓋接近音が対応する。

表 3. 蔵文 Ky 類、Py 類に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
酸っぱい	tey ⁵⁵	skyur
獵犬	ea ⁵⁵ tehi ⁵⁵	sha khyi
漢族	dza ⁵⁵	rgya
春	tei ⁵⁵ kha ⁵⁵	dpyid ka
観音	ein ⁵⁵ ze ⁵⁵ ze ⁵⁵	spyan ras gzigs
鶏舎	tea ³¹ khoŋ ⁵⁵	bya khang
夏	ja ⁵⁵ kha ⁵⁵	dbyar kha

蔵文 Kr 類と Pr 類の音対応について見ると、表 4 に示すように、蔵文 Kr 類は一律そり舌破擦音と対応し、蔵文 Pr 類はそり舌破擦音と対応するものが多いが、一部前部硬口蓋破擦音や両唇音、または両唇音+そり舌摩擦音に対応するものがある。

表 4. 蔵文 Kr 類、Pr 類に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
白髪	tʂa ⁵⁵ ka ⁵⁵	skra dkar
鷹	tʂha ⁵⁵	khra
村	tʂəŋ ³¹ pa ⁵⁵	grong pa
客	ndzø ²⁴ pu ⁵⁵	'grul po
雲	tʂen ⁵⁵	sprin
機械	tʂh ⁵⁵ teha ⁵⁵	'phrul cha
味	tʂ ³¹ ma ⁵⁵	bro ma
牧民	ndzø ³¹ pa ⁵⁵	'brog pa
蜂	dzo ⁵⁵	sbrang

はえ	nba ³¹ naŋ ⁵⁵	sbrang nag
数珠	phzen ⁵⁵ waŋ ⁵⁵ tʂaŋ ²⁴	phreng ba bgrang

蔵文鼻音字類の音対応について見ると、表5に示すように、鼻音字が単独である場合は原則的に有声鼻音かつ低声調で現れ、鼻音字に s 以外の先行子音字がある場合は有声鼻音かつ高声調で現れ、鼻音字に s が先行する場合は無声鼻音かつ高声調で現れる。注目すべきは、蔵文 ny と n の音対応で、どちらも前舌母音に先行する場合は前部硬口蓋鼻音、それ以外の場合は歯茎鼻音で現れる。このことは、蔵文 ny と n が音対応において合流していることを意味する。

表 5. 蔵文鼻音字類に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
資本金	ma ³¹ tʂa ⁵⁵	ma rtsa
太陽の光	ŋi ³¹ jø ⁵⁵	nyi 'od
漁師	na ³¹ pa ⁵⁵	nya pa
兵士	maŋ ⁵⁵ mi ⁵⁵	dmag mi
仲人	ŋe ⁵⁵ po ⁵⁵	gnyen po
天気	na ⁵⁵ ee ⁵⁵	gnam gshis
オウム	a ³¹ wu ⁵⁵ ŋi ⁵⁵ tsu ⁵⁵	a bo ne tso
鼓	ŋa ⁵⁵	rnga
菓	ŋin ⁵⁵	sman
鼻水	ŋa ⁵⁵ tehou ⁵⁵	sna chu
午前	ŋa ⁵⁵ tʂu ⁵⁵	snga dro

蔵文前接字 m, ' の音対応について見ると、表6に示すように、有声阻害音字に先行する場合はそれぞれの調音位置（表1参照）における前鼻音つき子音と対応し、無声有気阻害音字に先行する場合は前鼻音を伴わない、すなわち単子音字の音対応と同じようになる。ただし、語中にくる場合には、表6の「下半期」や「マニ車」のように、鼻音の成分が先行音節の末子音として反映される例もある。

表 6. 蔵文前接字 m, ' に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
矛	ndəŋ ⁵⁵	mdung
鍛冶屋	nga ⁵⁵ wa ⁵⁵	mgar ba
ヤク	ndzu ⁵⁵	mdzo
尾	ndzoŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	mjug ma

きり	nbəŋ ²⁴	'bug
泥	ndan ³¹ nba ⁵⁵	'dam bag
下半期	ləŋ ²⁴ dzu ⁵⁵	lo mjug
親指の長さの単位	thu ⁵⁵	mtho
胆	tʂhɿ ⁵⁵ pa ⁵⁵	mkhris pa
湖	tshu ⁵⁵	mtsho
機械	tʂhɿ ⁵⁵ tcha ⁵⁵	'phrul cha
車輪	kho ⁵⁵ lu ⁵⁵	'khor lo
手形	la ³¹ khi ⁵⁵ zɿ ³¹ mu ⁵⁵	lag mthil ri mo
マニ車	laŋ ³¹ kho ⁵⁵	lag 'khor

蔵文 l が単独子音字となる場合、足字となる場合、および蔵文 lh の組み合わせの場合について音対応を見ると、表 7 に示すように、蔵文 sl, lh は無声歯茎側面摩擦音⁵と対応し、それ以外は無声歯茎側面摩擦音と対応する。

表 7. 蔵文 l に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
工具	la ²⁴ tcha ⁵⁵	lag cha
力仕事	li ³¹ kha ⁵⁵	las ka
脳髄	lə ⁵⁵ pa ⁵⁵	klad pa
給料	la ⁵⁵ tcha ⁵⁵	gla cha
化身	la ⁵⁵ jen ⁵⁵	bla rgan
ルンタ	loŋ ⁵⁵ ta ⁵⁵	rlung rta
月	nda ³¹ wa ⁵⁵	zla ba
学校	la ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	slob grwa
菩薩	la ⁵⁵	lha

蔵文 y が単独子音字となる場合および g.y の組み合わせの場合について音対応を見ると、表 8 に示すように、いずれも硬口蓋接近音と対応する⁶。

⁵ ここで表記に用いられる /h/ が無声歯茎側面摩擦音であるかどうかは、研究史を踏まえると合理的な疑いが残る。というのも、張濟川(2009:278–281)に言及があるように、印刷上の問題で無声歯茎側面摩擦音 ʃ の代用として h が用いられる習慣があるからである。なお、筆者によるチベット系諸言語の記述 (Suzuki 2016, Tournadre and Suzuki 2023) では、両者の異なりは有意として使い分ける。有意であることが明確に分かる例は Suzuki (2013) や鈴木 (2023d) を参照。

⁶ ただし、/zi³¹za⁵⁵/「寡婦」という語が蔵文 yug za と対応する可能性がある。ただし、同様の音韻的な環境を持つ並行例を考えると、チベット系に由来する可能性は否定できないが、非常に特別な借用経路が想定される。詳細は 3.1 を参照。

表 8. 蔵文 y に対応する初頭子音

語義	松林語	蔵文形式
本/手紙	ji ³¹ ci ⁵⁵	yi ge
取っ手	jo ³¹ wa ⁵⁵	yu ba
アルミ	ha ⁵⁵ jaŋ ⁵⁵	ha yang
ターコイズ	ju ⁵⁵	g.yu
スカート	ŋin ⁵⁵ jou ⁵⁵	smad g.yogs

2.2. 母音＋末子音部の音対応

ここでは、松林語におけるチベット系借用語の母音＋末子音部の特徴について分析する。以下、次の4つのカテゴリーに分けてみていく：蔵文で末子音字を伴わない場合（表9）、蔵文で末子音字が閉鎖音（b, d, g）の場合（表10）、蔵文で末子音字が鼻音（m, n, ng）の場合（表11）、蔵文で末子音字がその他の音（l, r, s）の場合（表12）⁷。

蔵文で末子音字を伴わない場合とは、5つの母音 a, i, u, e, o との音対応を表す。表9に示すのは語末に来る例であるが、5つの母音の音対応は複数あるように見える。これらは先行子音との関係で説明がつくものが多い一方、分化の条件については明言が困難である。以下に音対応についての観察結果についてまとめる。蔵文 a には/a/が対応するのが基本である⁸。/aŋ/という形式は、主に蔵文 ma に対応し、子音 m の鼻音要素が語末に子音として現れるという現象である。蔵文 i には/i/が対応するのが基本である。一部の語で/i/と対応する例もある。語中の場合は/a/で現れる例も認められるが、語末には現れない。蔵文 u には/ou/が対応するのが基本である。一部の語で/u/と対応する例もある。語中の場合は/y, o/で現れる例も認められるが、語末には現れない。蔵文 e には/e/が対応するのが基本である。一部の語で/e/と対応する例もある。語中の場合は/a, e/で現れる例も認められるが、語末には現れない。蔵文 o には/o/が対応するのが基本である。語中の場合は/o, ə/で現れる例も認められるが、語末には現れない。

表 9. 蔵文で末子音字を伴わない場合の対応関係

対象の字	音対応	語義	松林語	蔵文形式
a	a	塩	tsha ⁵⁵	tsha
a	aŋ	わら	soŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	sog ma
i	i	山	ʒi ²⁴	ri
i	i	番犬	gə ⁵⁵ tehi ⁵⁵	sgo khyi
u	ou	鼻水	ŋə ⁵⁵ tehou ⁵⁵	sna chu
u	u	珊瑚	teo ³¹ ʒu ⁵⁵	byu ru

⁷ 後接字に再後接字 s がつく場合があるが、口語形式に明確な対応関係を得られないため、本節では再後接字 s の有無を区別しない。

⁸ 松林語の広母音は/a/のみが認められ、/a/は存在しない。

e	i	ライオン	sin ⁵⁵ ci ⁵⁵	seng ge
e	ɿ	火の玉	mi ⁵⁵ ndzɿ ⁵⁵	me 'dre
o	u	年初	lu ³¹ ngu ⁵⁵	lo mgo

蔵文で末子音字が閉鎖音 (b, d, g) の場合の対応関係の中で、語彙資料の中に見られる組み合わせについて語末に現れるものを、1例ずつ表 10 に掲げる。松林語は閉鎖音末子音が存在しないため、蔵文における閉鎖音末子音字と対応する音形は認められないが、表 9 の事例と比べると母音の質に影響があることが分かる。詳細は末尾の付録を参照。

表 10. 蔵文で末子音字が閉鎖音 (b, d, g) の場合の対応関係

対象の字	音対応	語義	松林語	蔵文形式
ab	ɛ	針	khɛ ²⁴	khab
ub	u	西	nu ²⁴	nub
eb	e	本	ji ³¹ ci ⁵⁵ dɛ ⁵⁵	yi ge deb
ob	o	あぶみ	jo ²⁴	yob
ad	e	十八	tei ⁵⁵ dze ⁵⁵	bcu brgyad
id	ɿ	役人	ngɔ ⁵⁵ tʂɿ ⁵⁵	mgo khrid
ud	y	電線	lo ⁵⁵ cy ⁵⁵	glog skud
ed	e	半日	ŋi ²⁴ tɕe ⁵⁵	nyin phyed
od	ø	光	jø ²⁴	'od
ags	ɑ	記号	tɑ ²⁴	rtags
ig	e	鍵	dɕe ³¹ me ⁵⁵	lde mig
ug	u	年末	lu ³¹ ndzur ⁵⁵	lo mjug
eg	e	レンガの壁	tse ⁵⁵	rtseg
og	o	花	mɔ ³¹ to ⁵⁵	me tog

蔵文で末子音字が鼻音 (m, n, ng) の場合の対応関係の中で、語彙資料の中に見られる組み合わせについて語末に現れるものを、1例ずつ表 11 に掲げる。このタイプは複数の音対応が認められるものが多い。また、語中に来る場合も表 11 に掲げたもの以外の音対応が認められ、音対応の関係が複雑である。詳細は末尾の付録を参照。

表 11. 蔵文で末子音字が鼻音 (m, n, ng) の場合の対応関係

対象の字	音対応	語義	松林語	蔵文形式
am	en	棺	zɿ ³¹ jɛn ⁵⁵	ro sgam
um	əŋ	油	ŋəŋ ²⁴	snum

an	in	薬	ɲin ⁵⁵	sman
in	en	雲	tʂen ⁵⁵	sprin
un	in	十七	tei ⁵⁵ tin ⁵⁵	bcu bdun
en	in	祭り	ty ³¹ tehin ⁵⁵	dus chen
on	en	鳩	phoŋ ⁵⁵ ʒen ⁵⁵	phug ron
ang	oŋ	レストラン	za ³¹ khoŋ ⁵⁵	za khang
ing	in	千支	lɔ ³¹ ein ⁵⁵	lo shing
ung	əŋ	袖	phə ⁵⁵ ndəŋ ⁵⁵	phu thung
ong	oŋ	洞窟	toŋ ²⁴	dong

蔵文で末子音字がその他の音 (l, r, s) の場合の対応関係の中で、語彙資料の中に見られる組み合わせについて語末に現れるものを、1例ずつ表 12 に掲げる。このタイプは複数の音対応が認められるものが多い。また、語中に来る場合も表 12 に掲げたもの以外の音対応が認められ、音対応の関係が複雑である。詳細は末尾の付録を参照。

表 12. 蔵文で末子音字がその他の音 (l, r, s) の場合の対応関係

対象の字	音対応	語義	松林語	蔵文形式
al	i	はっきりした	si ⁵⁵ si ⁵⁵	gsal gsal
il	i	手のひら	la ²⁴ thi ⁵⁵	lag mthil
ul	y	銀	ŋy ⁵⁵	dnɡul
el	i	眼鏡	me ⁵⁵ ei ⁵⁵	dmig shel
ol	o	鉄の鍬	teɑ ⁵⁵ eo ⁵⁵	lcags gshol
ar	ɑ	絵	pa ⁵⁵	par
ur	y	箸	kha ⁵⁵ thy ⁵⁵	kha thur
er	i	農民	mə ³¹ si ⁵⁵	mi ser
or	o	鋤	teɑ ⁵⁵ ndzo ⁵⁵	lcags 'jor
as	i	火薬	dzi ⁵⁵	rdzas
is	i	十二	teou ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	bcu gnyis
os	ø	腹の張った	bø ²⁴	sbos

3. チベット系諸言語の口語形式との対照

本節では、2節に見た音対応を主に松林語の分布域と関連のあるチベット系諸言語と対照することで、松林語の借用元について考察を進める。以下、蔵文との音対応の類型 (3.1) と語形式 (3.2) に分けて記述する。

3.1. 蔵文との音対応の類型

2節で整理した松林語におけるチベット系借用語の蔵文との音対応について、周辺のチベット系諸言語との音対応を対照することで、借用元または借用経路をチベット系諸言語の方言群レベルで明らかにできるか見ていく。参考となる文献には、瞿靄堂 (1990)、江荻(2002)、張濟川(2009)、Tourmadre and Suzuki (2023)などがある。

表1で扱った蔵文阻害音字に対応する有声性について見ると、松林語におけるチベット系借用語は、カムチベット語の代表的な特徴を反映しているといえる。松林語に特徴的でカムチベット語の事例としては例外的である現象として、蔵文の無声音字に対して有声音が対応したり、蔵文の先行子音字を伴う有声音字に対して無声音が対応したりする点がある。このような例を表13にまとめる。表13において、該当する箇所を太字で表示する⁹。

表 13. 有声性に関する例外的な対応関係

語義	松林語	蔵文形式
メト (県)	pe ⁵⁵ ma ⁵⁵ ʃo⁵⁵	pad ma bkod
背中	ci ²⁴ tsh ⁵⁵	sgal tshigs
にんにく	ko ³¹ pa ⁵⁵	sgog pa
十七	tei ⁵⁵ kin⁵⁵	bcu bdun
猪	pha ⁵⁵ co⁵⁵	phag rgod
後裔	ma ³¹ tey²⁴	mar rgyud

表13の例を見る限り、例外的な音対応は前部硬口蓋～軟口蓋音に限定される。また、語義に照らして、チベット系諸言語の口語形式として文語由来であることが強く推定される特別な注意の必要な語とはいえない¹⁰。また、「十七」に含まれる形態素「七」（蔵文 **bdun**）に注目すると、有声性について不自然な現象が認められる。表13にある例では、当該音節が第2音節に来る場合に初頭子音が無声音になっている。ところが、初頭音節に来る場合、たとえば/dy⁵⁵teou⁵⁵/「七十」や/din⁵⁵dza⁵⁵/「七百」では有声音であり、表1の傾向から考えれば「十七」の形式が有標と言える¹¹。これらの語が形態素分析がされない状態で借用された可能性もある一方で、記録者による有声性の誤認の可能性も考えられる。しかしながら、二次資料を用いる研究ではその判断に限界がある¹²。

⁹ 表13にある「メト (県)」に対応する語形は、当該地域のチベットの伝統的な地理概念で用いられる呼称に対応する。

¹⁰ 文語由来とは、チベット文語（文字形式）の読み（読書音）を介した借用を指す。宗教・文化語彙に有意に現れることが多い。Denwood (1999:38–39)を参照。

¹¹ 数詞「七」には、チベット・ビルマ祖語*s-ni-s (STEDT #2505)に対応する松林語の本来語が用いられる。そして、その形式が松林語がチベット系諸言語と異なる言語と判断できる1つの根拠であると考えられる（鈴木2023b）。

¹² 同一の形態素間の音形のゆれは、「六」（蔵文 **drug**）にも見られる。数詞に関しては、稿を改め体系的な対照研究が必要である。

また、表1の蔵文有声摩擦音字に対応する松林語の形式を見ると、当該字に対応する初頭子音はみな有声であることが分かる。この現象はカムチベット語の中でも有標である。この特徴は、松林語の分布地域の周辺では Sangdam 方言に認められる。さらに、蔵文 sh, zh に対応する初頭子音は前部硬口蓋摩擦音である。この対応音は、Suzuki et al. (2019)が示すようにチベット系諸言語について多様な音声実現があるが、松林語の分布地域の周辺では少数派で、Tshawarong 方言に体系的に認められる。

表2で扱った蔵文 K 類、T 類の調音位置がそれぞれ2種類に分かれる現象については、チベット系諸言語では未確認である。加えて、蔵文 K 類が単独で初頭子音として硬口蓋音に対応する事例も、蔵文 T 類が単独で初頭子音として前部硬口蓋音に対応する事例も未報告である¹³。このため、現象自体は松林語自体に備わっている音体系上の制約によるものと考えerるほうが妥当である。

表3、表4で扱った蔵文 Ky 類、Py 類、Kr 類、Pr 類の音対応は、チベット系諸言語の方言区画を議論するうえで最もよく取り上げられる特徴であり（瞿靄堂、金效静 1981、西田 1987、江荻 2002、張濟川 2009）、特にカムチベット語の内部分岐の複雑さもこの特徴に現れる（鈴木 2016, 2022a, Suzuki 2022a）。鈴木(2018, 2022a)は、これら4つの特徴に蔵文 C 類を加えて考察する。これを参考に、表14で5種の形式について松林語におけるチベット系借用語が見せる対応関係といくつかのカムチベット語の事例を対照する¹⁴。

表 14. 蔵文 Ky 類、Py 類、Kr 類、Pr 類の音対応の類型

言語/方言名	C 類	Ky 類	Py 類	Kr 類	Pr 類
松林語	teh/te/dz	teh/te/dz	teh/te/dz	tʂh/tʂ/dz	tʂh/tʂ/dz
Sangdam	cɕ ^h /cɕ/jj	te ^h /te/dz	te ^h /te/dz	tʰ/t/d	tʰ/t/d
Tshawarong	te ^h /te/dz	ts ^h /ts/dz	ts ^h /ts/dz	tʰ/t/d	tʰ/t/d
sMarkhams	te ^h /te/dz	te ^h /te/dz	te ^h /te/dz	tʰ/t/d	tʰ/t/d
Bodgrong	cɕ ^h /cɕ/jj	te ^h /te/dz	e ^h /e/z	tʰ/t/d	tʰ/t/d
nJol	te ^h /te/dz	te ^h /te/dz	e ^h /e/z	tʂ ^h /tʂ/dz	tʂ ^h /tʂ/dz
mBathang	te ^h /te/dz	te ^h /te/dz	e ^h /e/z	tʂ ^h /tʂ/dz	tʂ ^h /tʂ/dz

表14に掲げた対応形式の類型から考えると、松林語は sMarkhams 方言との体系的な共通性が認められるといえる。特に C 類、Ky 類、Py 類の音対応が合流するのは、カムチベット語の

¹³ 硬口蓋閉鎖音が蔵文の単純な子音字と対応関係を示すのは、sPomtserag 方言において蔵文 C 類（基字を c, ch, j とする全ての対応形式）と対応する現象があたる（鈴木 2009b）。前部硬口蓋閉鎖音が蔵文の単純な子音字と対応関係を示すのは、Lamdo 方言や dNgo 方言において蔵文 C 類と対応する現象があたる（鈴木 2010, 2017）。いずれも蔵文 C 類がかかわる点で興味深い。

¹⁴ カムチベット語諸方言について、参考となる資料は次のようである。Sangdam：鈴木(2012)、Tshawarong：鈴木(2021a)、sMarkhams：鈴木(2018a)、Bodgrong：鈴木(2014)、nJol 及び mBathang：鈴木(2009a)。なお、表14では、先行子音やわたり音を伴うような事例は表示しない。

中では少数派である。一方で、C 類と Py 類が合流する特徴はラサチベット語を中心とする中央チベット語の特徴でもあるため、チベット系諸言語全体を見れば、音対応の関係として不自然ではない。しかしながら、松林語の語域を考えれば、中央チベット語からの体系的な借用を考えるのは困難である。このため、カムチベット語の中でも sMarkhams 方言の属する南路方言群の諸方言が借用元である蓋然性が高い。一方で、表 4 でみた蔵文 Py に対応する例外的音対応の 1 つである /cin⁵⁵ze⁵⁵ze⁵⁵/「観音 (Avalokiteśvara)」(蔵文 *spyan ras gzigs*) の初頭子音 /c/ は蔵文 *spy* と対応し、この対応関係はカムチベット語で広く認められる (鈴木 2016) が、察隅県の付近のカムチベット語には該当しない特徴である。また、蔵文 Pr に対応する例外的音対応の 1 つである /phzɛn⁵⁵wɑŋ⁵⁵/「数珠」(蔵文 *phreng ba* に対応) の初頭子音 /phz/ は蔵文 *phr* との対応関係を有し、これは現代のカムチベット語ではほとんど確認できないが、Phongpa 方言 (鈴木 2020, 2022c) のように今なお /p^hr/ という子音連続を保持するものに例証される¹⁵。以上に示した 2 つの語は宗教・文化語彙と考えられるため、その借用には他の語彙類と異なる経路が考えられるといえる。

表 5 で扱った蔵文鼻音字類の音対応における無声鼻音の対応関係や表 6 で扱った蔵文前接字 *m*, ' の音対応における前鼻音の対応関係については、カムチベット語諸方言の多くの事例と並行するものである¹⁶。その中で注目すべきは、蔵文 *ny* に歯茎鼻音が対応する事例である。この特徴は有標で、sMarkhams 方言や Sangdam 方言など、限られた変種にのみ認められるものである¹⁷。しかも、松林語は /n/ と /ŋ/ を弁別する。すなわち、松林語の周辺には、同様の特異な特徴を持ったカムチベット語方言が話されていて、かつそれらの方言から音形式を借用したことで、同特徴が松林語に反映されていると考えることは自然である。

表 7、表 8 でそれぞれ扱った蔵文 *l* と蔵文 *y* の音対応は、鈴木(2021b)や Suzuki (2022a) で扱ったように、一定の相関関係が認められるものである。松林語における借用語における音対応が示すのは、カムチベット語の多数派の特徴となる。松林語の周辺のカムチベット語諸方言は多数派の特徴を示すが、表 14 で取り上げた nJol 方言をはじめとする sDerong-nJol 方言群に属する諸方言は異なる音対応を示す (鈴木 2021b も参照)。この点を踏まえて考えると、松林語の借用元は、周辺に分布する方言である可能性が高い。ただし、注意の必要な例が 1 つある。松林語 /zi³¹za⁵⁵/「寡婦」については、蔵文 *yug za* と対応する可能性がある。もし蔵文 *y* に /z/ が対応するとすると、これが sDerong-nJol 方言群に見られる有標の対応関係を示していることになる。

¹⁵ Phongpa 方言の系統およびそのチベット言語学上の位置づけは鈴木(2022c)とともに Suzuki (2023)を参照。なお、東部チベット地域、特にカムチベット語分布地域において、わたり音 *r* が独立した子音音価を持ちえた地域と時代については、西田(1963)、鈴木(2007c, 2009c, 2015)、Suzuki (2009a)などを参照。また、Phongpa 方言と近い関係にある諸方言に見られるわたり音 *r* の多様な音対応については鈴木(2013)、Suzuki (2023)を参照。これらの記述を総合的に考えれば、16-17 世紀ごろまでは雲南地域のカムチベット語でもわたり音 *r* が独立した子音音価を持っていたのではないかとはいえる。

¹⁶ 後者については、カムチベット語の場合、筆者の記述では無声有気音にも先行しうる事が確認できる方言が多いが、筆者以外の記述ではその存在を認めないものが多い (Hongladarom 1996, Bartee 2007 など)。これは前鼻音と認定する音的性質の定義が異なることも影響している可能性が高い。詳細は Suzuki (2021)参照。

¹⁷ ほかに卓尼チベット語 (鈴木 2012b, Zou and Suzuki 2022) が該当するが、分布地域の視点から見ると、松林語と関連するとはいえない。

ただし、この対応関係はただ1例のみに見られるものであり(表8参照)、現在筆者の手元にあるチベット系諸言語の資料から借用経路を想定することは困難である。sDerong-nJol 方言群から他言語(たとえばラモ語やセク語)を経由した借用語である可能性もある。今後の検討課題である。

母音+末子音字の諸形式について見ていくと、表9で扱った蔵文で末子音字を伴わない場合について、蔵文 a に後舌広母音/a/が対応するのは、チベット系諸言語の状況から見れば有標である(鈴木 2007b)が、松林語には広母音が/a/に限られるため、借用語の来歴を考える上では有用でない¹⁸。一方、初頭子音字が鼻音で接辞の場合、その音対応が/aŋ/となる例については、Chaphreng 方言群や sDerong-nJol 方言群など複数のカムチベット語方言で認められる現象(例えば ma に対して/□ □mã, fã, fũ/)と共通するところがある(鈴木 2007b, 2012c, 2023a)。これは中央チベット語 sGar 方言(瞿靄堂、譚克讓 1986)や卓尼チベット語(鈴木 2012b)などにも認められる。蔵文 i が/h/とともに/i/と対応する点は、カムチベット語にはほとんど例がないといえ、中央チベット語諸方言と近似する¹⁹。蔵文 u が/ou/とともに/u/と対応する点もまた、カムチベット語にはほとんど例がないが、Bodgrong 方言については/u/と対応する(鈴木 2014)。蔵文 e, o がそれぞれ/i, ɣ/と/u/に対応する点については、カムチベット語 Tshawarong 方言のほか、sDerong-nJol 方言群の一部について近似の事例が認められる(鈴木 2008)。これらの特徴を見ていくと、松林語の借用語が全体的に示す特徴はカムチベット語の一部の方言と共通する点が多いといえる。

表10で扱った蔵文で末子音字が閉鎖音(b, d, g)のものについて見ていくと、カムチベット語の場合、ほとんどの変種で当該のつづりに対応する音形は声門閉鎖音を伴う。しかしながら、松林語の音節構造から末子音字に対応するものが独立した子音で現れることはなく、単に先行する母音の舌位置に影響しているといえる(表9の対応音を参照)。この中で、蔵文 ab, ug の対応関係を見ると、カムチベット語の中で母音がそれぞれ/e, u/に対応するものはまれである。カムチベット語について見ると、蔵文 ab には/a, ɔ/がよく対応し、蔵文 ug には/a, u/がよく対応する。ところが、後者について Tshawarong 方言では/u/に対応し、Sangdam 方言では/aɯ/に対応するものが認められる。部分的な共通性であるものの、有標の特徴を共有している点で、借用語がこれらの方言と関わりがある可能性が指摘できる。

表11で扱った蔵文で末子音字が鼻音(m, n, ng)のものについて見ていくと、カムチベット語の場合、ほとんどの変種で当該のつづりに対応する音形は鼻母音での実現で、末尾鼻音を伴う事例は少数に限られる。松林語の記述において、宋成等(2019:23)は鼻母音の取り扱いについて、最終的に末尾鼻音に統一した旨を記している。ただし借用語について見る限り、末尾鼻音

¹⁸ カムチベット語諸方言は、筆者の記述方式(Suzuki 2016)に従うと、通常は前舌の/a/と後舌の/a/が対立する体系を示す。少数例については、中舌の/a/も対立をなす。一方で、これらの対立を認めない分析もある。

¹⁹ 蔵文 i が/h/に対応するチベット系諸言語は、ほとんど見当たらない。カムチベット語では、多くの変種で/a/が対応する。一方、宋成等(2019)における/h/は/a/とは対立を形成しないようである。このため、音韻的に/h/は/a/の一種であるという見方も成立しうるといえる。もしこのように考えられるのであれば、松林語におけるチベット系借用語における蔵文 i と/h/の対応関係は、多くのカムチベット語と並行することが指摘できる。

は借用元の音形を反映しているというよりは、先行する母音の質も関連し、松林語における母音+末尾鼻音の組み合わせに見られる傾向に従って末尾鼻音を割り当てているように見える。このことは、借用元において明確に末尾鼻音の音特徴を反映していたとみなすことが困難であることを示し、すなわち借用時に借用元が調音上明瞭な末尾鼻音を持っていたとはいえない可能性を示唆する。この中で、藏文 *am, an, un* の対応関係を見ると、カムチベット語の中で母音がそれぞれ /*ɛ, i, i*/ に対応するものはまれである。その中で多少の共通性を見いだせるのが Sangdam 方言で、藏文 *an, un* の対応形式の母音がそれぞれ /*e, i*/ となる。一方で藏文 *am* については中舌広母音であるから、類型が異なるといえる²⁰。

表 12 で扱った藏文で末子音字がその他の音 (*l, r, s*) のものについて見ていくと、カムチベット語の場合、ほとんどの変種で当該のつづりに対応する音形は長母音での実現で、末尾子音を伴う事例はほぼ認められない。松林語は母音の長短を認めず、声調と音節長の関連もないため、単に先行する母音の舌位置に影響しているといえる。これについては各種チベット系諸言語でさまざまな対応がある一方、特に有標な形式、たとえばそり舌化 (鈴木 2011, 2019) を松林語に見いだせないため、際立つ特徴を指摘することはできない。

以上、松林語のチベット系借用語に見られる音対応の諸特徴をチベット系諸言語の音対応と対照した。その結果、松林語に見られる借用語の音形式についてすべてが一致する特徴を持つチベット系諸言語は認められなかった一方、多くの有意な特徴を共有する方言 (Tshawarong 方言や Sangdam 方言) が察隅県の付近に分布していることが指摘できる。また、宗教・文化語彙がカムチベット語の異なる方言群との関連が示唆される例も認められた。

3.2. 語形式

チベット系諸言語は音形式の言語差・方言差が大きい一方、語形の差異が相対的に小さいことで知られる (Tournadre 2005 ; Endo et al. 2021 も参照)。後者について、その異同と地理的分布を明らかにする先行研究は多くないが、東チベット地域についてはいくつかの地理言語学的研究がある (Suzuki 2009b, 2018, 2019b, 2022a ; 鈴木 2015)。ここでは、松林語の語域と近い地域で話されるカムチベット語に特に注目していく。先行研究として参照できるものには、鈴木 (2012a, 2021a, 2023a)、Suzuki (2022c) がある。

松林語におけるチベット系借用語は、そのほとんどが藏文との対応関係を見せる。一方、少数の語形式は対応する藏文形式をもたないがチベット系諸言語の口語形式との対応関係を見せるというタイプのものもある。後者に該当する語は、たとえば表 15 に掲げるようなものがある。

²⁰ ただし語形式の点で藏文 *am* 対応形式には注目すべきものがある。3.2 を参照。

表 15. 語形式が特徴的なチベット系借用語

語義	松林語	蔵文形式
道	dzen ⁵⁵ lien ⁵⁵	rgya lam
虹	za ⁵⁵	< 口語
石橋	de ⁵⁵ ndzen ⁵⁵	rdo'i 'dzam*
蜂	dzo ⁵⁵	sbrang
らば	ku ⁵⁵ zu ⁵⁵	ku ru
猫	a ⁵⁵ li ⁵⁵	a li / a le
うさぎ	zɣ ³¹ kuŋ ⁵⁵	ri bong
指輪	la ²⁴ dʒi ⁵⁵	lag ? < 口語
粉末	ndzo ²⁴	< 口語
唇	tchi ³¹ phu ⁵⁵	mchu + ?
首	ka ⁵⁵ loŋ ⁵⁵	ske ? < 口語
子供	ka ²⁴ ka ⁵⁵	< 口語
こん棒	pi ³¹ ga ⁵⁵	< 口語
ヤク	ndzu ⁵⁵	mdzo
らくだ	tɛn ⁵⁵ ŋa ⁵⁵ mu ⁵⁵	< 口語
麺	pa ³¹ thu ⁵⁵	< 口語
化身	la ⁵⁵ jen ⁵⁵	bla rgan
バイク	ba ³¹ ba ⁵⁵	sbag sbag

語形式の場合、語ごとにたどった歴史が異なるため、複数の語形の事例を積み重ねても松林語の歴史を求めることは困難である。しかしながら、個別事例の検討を積み重ねること自体に意義を認めることができる。以下、表 15 に挙げた形式について、筆者の手元にある資料を参考にしなが、1 つずつ解説していく。

「道」については、蔵文 lam または rgya lam との対応関係が期待される。この点で、松林語 /dzen⁵⁵lien⁵⁵/ の第 2 音節が /lien/ となる点に注目できる。蔵文 am は /en/ と対応することは 3.1 で見たが、その前に /i/ が入るのは有標である。これと対照するべきは Tshawarong 方言の形式で、/lja²¹/ となる点（鈴木 2021a）である。本来この形式は蔵文 l が /j/ に対応する現象と理解される可能性（鈴木 2021b）があったが、松林語の借用形を見れば、特定のカムチベット語にも /j/ が挿入される特別の形式で現れ、それが借用元の音形式であった可能性が非常に高いといえる。

「虹」については、Suzuki (2009b:75) にも指摘があるように、蔵文 'ja' または gzha' との対応関係が期待され、松林語 /za⁵⁵/ のように /z/ という初頭子音をもつものは例外とされる。そして、この /z/ をもつ形式は、雲南省で話されるカムチベット語のいくつか、たとえば Bodgrong 方言（鈴

²¹ チベット系諸言語の語形の引用については、声調符号を省略する。以下同じ。

木 2014) に認められる。

「石橋」については、第 2 音節の初頭子音に注目する。Suzuki (2009b:76)にも指摘があるように、藏文の語幹 *zam* との対応関係が期待される。松林語/*de⁵⁵ndzen⁵⁵*/における/*ndz*/という形式は雲南省で話されるカムチベット語に広く見られる口語形式と並行する。加えて、Tshawarong 方言も/*dz*/を初頭子音とする形式を用いる。

「蜂」については、藏文の語幹 *sbrang* との対応関係が期待される。松林語/*dzo⁵⁵*/もこの形式との対応関係を認めるが、*sbr* と/*dz*/の音対応が特別であるといえる。表 4 で見たように、藏文 Pr 類に対応するのはそり舌破擦音であるため、確かに例外的といえる。しかしながら、藏文の語幹 *sbrang* はチベット系諸言語でも 1 変種の中で語義によって複数の音対応が認められることもあり (たとえば *Sems-kyi-nyila* 方言群 ; Suzuki 2011:126)、松林語は「蜂」を/*dz*/の初頭子音をもつ方言から借用した可能性がある。

「らば」については、Suzuki (2009b:81)にも指摘があるように、藏文 *drel* との対応関係が期待され、2 音節語は例外とされる。ただし、*ku rug* または *ske ru* (ただし「ロバ」の意) というつづりは確認され (DTLF 1899:7)、雲南省で話されるカムチベット語に広く見られる口語形式と並行する。なお、Sangdam 方言ではこれと対応する 2 音節形式を用い、Tshawarong 方言では対応する 2 音節形式は「ロバ」を意味する。

「猫」については、チベット系諸言語についての複数の研究がある (鈴木 2015, Suzuki 2022a, Qin and Suzuki 2016)。松林語/*a⁵⁵li⁵⁵*/と並行する形式はカムチベット語の語域の中央部に広く見られる。なお、Sangdam 方言や Tshawarong 方言でも松林語と類似の形式をもち、いずれも第 2 音節の母音が/*l*/となる点に注目できる。カム地域中央部では/*u*, *ə*, *ju*, *je*/がよく現れるからである。

「うさぎ」については、東チベット文化圏のチベット系諸言語について鈴木(2022b)の記述がある。松林語/*zɿ³¹kuŋ⁵⁵*/は藏文 *ri bong* の口語形式を反映していると言えるが、2 音節の音形式に地域特徴が出る。Sangdam 方言では、他の多くのカムチベット語そして松林語と同じく軟口蓋閉鎖音を初頭子音とする一方で、Tshawarong 方言では/*b*/が現れる点に注目できる。

「指輪」については、Tshawarong 方言に類似の形式/*la ʰiʔ*/が認められる。対応する藏文は不明である。表 2 から前舌母音に前部硬口蓋閉鎖音が先行することが一般的であるため、松林語の音形は、Tshawarong 方言の音形式に沿っているといえる。

「粉末」については、藏文 *phye* との対応関係が期待される。この点で松林語/*ndzo²⁴*/は近似しているということはないが、雲南省に分布するカムチベット語諸方言には初頭子音が/*dz*/, *dz*/, *dz*/, *dz*/などと対応するものがあり、これと松林語の形式に関連を認めることができる。

「唇」については、藏文の語幹 *mchu* との対応関係が期待される。この点で松林語/*tehi³¹phu⁵⁵*/の第 1 音節は対応関係があるが、第 2 音節の形式は藏文に見られない。初頭子音として/*p*/を持つ口語形式は存在するが、その形式を借用した可能性が考えられる。

「首」については、藏文の語幹 *ske* との対応関係が期待される。この点で松林語/*ka⁵⁵loŋ⁵⁵*/の第 1 音節は対応関係があるが、第 2 音節の形式は藏文に見られない。ところが、カムチベット語

sDerong-nJol 方言群の諸方言には、第2音節が/l/となるものが複数認められる。その中で、Tshawarong 方言にも同様の形式が見られる。

「子供」については、藏文の語幹 *phrug* との対応関係が期待される。松林語の形式は直接藏文とは関連がない。しかしながら、カムチベット語の中で、同語幹に対応する形式を用いる方言は限られている。それに代わって、さまざまな口語由来の語形がある。その中でも、初頭子音が/k/である音節を含む形式、たとえば/ka ka/, /pa ka/を用いるものがカム地域全般に見られる。この形式は本来的に「小さい」という意味を持つ形容詞として機能しているが、それが「子供」への意味拡張が起きたと考えられる。松林語はこの語形を「子供」の意味で用いる方言から借用した可能性が高い。

「こん棒」については、藏文の語幹 *rgyug, dbyugs* との対応関係が期待される。一方、松林語の形式はカムチベット語の複数の方言で見られる/pe^hga/のような形式と関連があるといえる。なお、Suzuki and Sonam Wangmo (2021)では、この口語音に対応する藏文に *sbe ga* というつづりを与えている。

「ヤク」については、藏文 *g.yag* との対応関係が期待される。一方、松林語の形式/ndzu⁵⁵/は、表15に記した通り、藏文 *mdzo* 「ゾ (おすヤクとめす牛の混合種)」と対応する語形である。これは藏文に対応する形式からの借用語であるが、その意味範疇が異なっている。チベット系諸言語では、牛類に関する語形が細分化されているが、標高の低い地域で話される変種では、「ヤク」の語形が「ゾ」となる例も複数認められ、Bodgrong 方言がその1つである (鈴木 2014)。このような背景から、松林語も同様の特徴を持つチベット系言語から借用したものと考えられる。

「らくだ」については、藏文 *mga mong* との対応関係が期待される。一方、松林語の形式/ten⁵⁵ŋa⁵⁵mu⁵⁵/は第2、第3音節が藏文と対応すると考えられるが、3音節形式全体でカムチベット語でよく見られる/ɬŋämö/といった形式を借用した可能性が高い。というのも、第1音節の意味が同定できておらず、それと藏文形式を並列するのは語構成として並行例がないものである。Sangdam 方言でも、これに類する3音節形式が用いられる。

「麺」については、藏文の語幹 *thug* との対応関係が期待される。松林語の形式/pa³¹thur⁵⁵/は直接藏文との関連はない。しかしチベット系諸言語で見られる/pə daʔ/のような形式と共通するものと考えられる。とはいえ、この形式はカムチベット語の場合 *Minyag Rabgang* 方言群に見られ (鈴木 2007a)、松林語の分布地域とは離れた地域で話されている。直接の借用関係を考えるのは困難である。

「化身」については、藏文 *sprul sku* や *bla ma* といった形式との対応関係が期待される。松林語の形式/la⁵⁵jen⁵⁵/は、藏文 *bla rgan* (直訳「年老いたラマ」) と対応関係があるとみなせるが、この表現がチベット系諸言語で「化身」の意味で用いられる例は見られない。藏文 *rgan* を伴う名詞が文字通り「年老いた」を表すほか、単なる接辞 (Suzuki and Sonam Wangmo 2017、鈴木、友珍 2019)、謙讓語およびそれと表裏一体の侮蔑表現 (Tsering Samdrup and Suzuki 2019) の用法がある。3つめの場合、チベット文化圏で「化身」のような身分の高い人物に対して用いられ

る表現ではない。当該語が本来は「化身」ではなく「高僧」の語義でも用いられている場合、高僧は年老いているから、という事情は想定できるだろう。いずれにせよ松林語分布地域の文化圏における宗教の様相を詳しく調査する必要がある。

「バイク」については、蔵文において本来語としては存在しない。このため、多くのチベット系諸言語では借用語が用いられる。カムチベット語では漢語「摩托」からの借用語を用いる場合が多い。松林語の形式/ba³¹ba⁵⁵/は中央チベット語でよく用いられる形式であるが、Sangdam 方言にも似た音形の語を「サイカー（後輪の片側に座席を設置した自転車）」の意味で用いる。似た音形が松林語分布地域の付近で用いられている可能性が見積もられる。

さて、宋成 等(2019:61–114)には記載がないものの、宋成 等(2019:6)に言及される「松林語」の自称について見ておきたい。松林語による「松林語」の音形は/saŋ³¹lin⁵⁵pu⁵⁵lo³¹je⁵⁵/であるという。前の3音節/saŋ³¹lin⁵⁵pu⁵⁵/は「松林人」の意味であることが分かっているため、最後の2音節が「言語」を表す部分と言える。そしてその部分は、表 13 で見たことも踏まえて考えると、蔵文 logs skad と対応するものと考えて差し支えないだろう。蔵文 logs skad という語はそもそも「(指示対象が)チベット文化圏で通用性の限りなく低い言語」という中立的な意味であるが、蔑称ととらえる言語圏もあることで知られている (Suzuki 2022b)。ただし、チベット自治区東部においては、客観的かつ中立的な意味としてとらえられていると考えてよい (Suzuki and Sonam Wangmo 2016, Tashi Nyima and Suzuki 2019, Suzuki 2022b, 鈴木 2023c)。松林語話者が自身の母語を蔵文 logs skad の借用語として用いていることは、指示対象 (=松林語) が非チベット系言語であると認識している根拠の1つといえ、かつその語が中立的な意味であることを示唆するものである。

4. まとめ

本稿では、宋成 等(2019)の資料に基づいて、松林語のチベット系借用語の蔵文との音対応を明らかにし、それを周辺のチベット系諸言語と対照することで、松林語の借用元について考察した。その結果、松林語のチベット系借用語は現在記録されているチベット系諸言語の1変種に完全に対応するものがない一方、多くの特徴を複数のカムチベット語方言と共有していることから、カムチベット語諸方言との借用関係を認めることは問題ない。また、語彙の性質によって借用元が異なるという点について若干例が認められることが分かった。宗教・文化語彙の一部は、カムチベット語の特徴を示しているが、それらと並行する借用語の音対応から、異なる借用経路を認めることができるといえる。

主たる借用元と考えられる松林語に接触したチベット系諸言語が不明である一方、その音形式が Sangdam 方言や Tshawarong 方言と複数の、かつ際立つ音特徴を共有していることは、同地域のチベット系諸言語の歴史にとって示唆に富むものである。本稿の結果を手がかりに、察隅県でのチベット系諸言語の方言学的研究を行うことで、さらに明確な言語史を構築できる可能性が高く見積もられる。

付録：松林語におけるチベット系借用語一覧（意味分類に基づいて）

以下に宋成 等(2019: 61–114)にある語彙資料から、同書の設定する意味分類に従ってチベット系借用語を整理する。これは原書が調査票に従い語彙を3つの層に分けているため検索に不便であるのと、借用元の形式を掲げていないため、索引の意味を兼ねる。ただし、本稿では「動作・行為」「その他の品詞」は取り上げない。なお、蔵文形式について語形の後ろに*を付したものは、口語形式に基づく形式であり、正書法として認められない場合がある一方で、使用する人もいる。?は対応する蔵文形式が不明であり、筆者の資料にも対応するチベット系諸言語の口語形式が分からないものを指す。+は対応する蔵文形式がその前後のいずれかの音節しか判明しないものを指す。< 口語は、チベット系諸言語における口語形式に対応するものがある場合を指す。漢語からの借用語を含む場合は「漢語」と明記する。

(一) 天文地理

語義	松林語	蔵文形式
月	nda ³¹ wa ⁵⁵	zla ba
星	ka ⁵⁵ ma ⁵⁵	skar ma
雲	tʂen ⁵⁵	sprin
雹	sa ⁵⁵ wa ⁵⁵	ser ba
霧	m̥əŋ ⁵⁵ pa ⁵⁵	smug pa
露	zi ³¹ tehou ⁵⁵	zil chu
日食	ŋe ²⁴ ndzin ⁵⁵	nyi 'dzin
月食	nda ³¹ ndzin ⁵⁵	zla 'dzin
天気	na ⁵⁵ ee ⁵⁵	gnam gshis
干ばつ	tʂen ⁵⁵ nba ⁵⁵	than pa
乾燥地	kaŋ ²⁴ zin ²⁴	skam zhing
山	zɕ ²⁴	ri
道	dzen ⁵⁵ lien ⁵⁵	rgya lam
谷	loŋ ³¹ pa ⁵⁵	lung pa
虹	za ⁵⁵	< 口語
湖	tshu ⁵⁵	mtsho
池	teho ⁵⁵ toŋ ⁵⁵	chu dong
地震	sa ⁵⁵ ŋy ⁵⁵	sa 'gul
泥	ndan ³¹ nba ⁵⁵	'dam bag
すす	du ⁵⁵ sɕ ⁵⁵	rdo sol
炭	si ³¹ wa ⁵⁵	sol ba
灰/埃	tʂi ³¹ sur ⁵⁵	thal sol

湯	tehi ³¹ tshen ²⁴	chu tshan
太陽の光	ŋi ³¹ jø ⁵⁵	nyi 'od
光	jø ²⁴	'od
土地	sa ⁵⁵ teha ⁵⁵	sa cha
雪山	koŋ ³¹ ʒu ⁵⁵	gangs ri
平原	thaŋ ⁵⁵	thang
滝	tehy ³¹ doŋ ²⁴	chu'i dong
草原	tsa ⁵⁵ thaŋ ⁵⁵	rtswa thang
沙漠	tea ³¹ ma ⁵⁵ thoŋ ⁵⁵	bye ma thang
峡谷	ləŋ ³¹ pa ⁵⁵	lung ba
洞窟	toŋ ²⁴	dong
公道	zuŋ ⁵⁵ lien ⁵⁵	gzhung lam
金	sie ⁵⁵	gser
銀	ŋy ⁵⁵	dngul
銅	zoŋ ²⁴	zangs
鉄	tʂhɿ ⁵⁵ tea ⁵⁵	khro lcags
鍍	tsa ⁵⁵	gtsa'
錫	za ³¹ ŋi ⁵⁵	zha nye
アルミ	ha ⁵⁵ jaŋ ⁵⁵	ha yang
瑪瑙	tey ³¹ ʒu ⁵⁵	byu ru
ガラス	ei ⁵⁵ ku ⁵⁵	shel sgo
火薬	dzi ⁵⁵	rdzas
炎	mi ⁵⁵ jø ⁵⁵	me 'od
火打石	tea ³¹ tu ²⁴	lcags rdo
石油	sa ⁵⁵ ŋəŋ ⁵⁵	sa snum
井戸	tehu ⁵⁵ toŋ ⁵⁵	chu dong
竜巻	loŋ ⁵⁵ kho ⁵⁵	rlung 'khor
明けの明星	na ³¹ se ⁵⁵ ka ⁵⁵ ma ⁵⁵	gnam gsal skar ma
月光	nda ³¹ jø ⁵⁵	zla 'od
川の岩	dza ³¹ tehu ²⁴	rdza che bo
川の小石	tehy ⁵⁵ du ⁵⁵	chu'i rdo
せき止め湖	tshu ⁵⁵ teha ²⁴	mtsho chag
草むら	tsa ⁵⁵ poŋ ⁵⁵	rtswa spang
波浪	tehu ³¹ pa ²⁴	chu rba
チベット	pø ³¹ teŋ ⁵⁵	bod ljongs
ラサ	la ⁵⁵ sa ⁵⁵	lha sa

メト (県)	pe ⁵⁵ ma ⁵⁵ ʃø ⁵⁵	pad ma bkod
インド	dza ³¹ ka ⁵⁵	rgya gar
村の上手	tʂəŋ ³¹ ngu ⁵⁵	grong mgo
村の下手	tʂəŋ ³¹ ti ⁵⁵	grong mthil
曲がり角	tʂɿ ³¹ ndzu ⁵⁵	gru 'jug
石橋	de ⁵⁵ ndzen ⁵⁵	rdo'i 'dzam*
石柱	za ⁵⁵ mu ⁵⁵	rdza mo
世界	zaŋ ³¹ lin ⁵⁵	'dzam gling
峠	la ³¹ tsɿ ⁵⁵	la rtse

(二) 時間・方位

語義	松林語	蔵文形式
来年	saŋ ³¹ lo ²⁴	sang lo
年初	lu ³¹ ngu ⁵⁵	lo mgo
年末	lu ³¹ ndzu ⁵⁵	lo mjug
午前	ŋa ⁵⁵ tʂu ⁵⁵	snga dro
正午	ŋi ²⁴ zoŋ ⁵⁵	nyi + ?
午後	tehou ⁵⁵ gu ⁵⁵	phyi gu
夕方/夜	tshen ⁵⁵ zoŋ ⁵⁵	mtshan + ?
暦	lu ³¹ tho ⁵⁵	lo tho
春	tei ⁵⁵ kha ⁵⁵	dpyid ka
夏	ja ⁵⁵ kha ⁵⁵	dbyar kha
秋	ty ⁵⁵ kha ⁵⁵	ston kha
冬	ʃø ⁵⁵ kha ⁵⁵	dgun kha
新年	la ³¹ sa ⁵⁵	lo sar
祭り	ty ³¹ tehin ⁵⁵	dus chen
上半期	lu ²⁴ ngu ⁵⁵	lo mgo
下半期	ləŋ ²⁴ dzu ⁵⁵	lo mjug
二月	nda ³¹ wa ⁵⁵ ŋi ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba gnyis pa
三月	nda ³¹ wa ⁵⁵ səŋ ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba gsum pa
四月	nda ³¹ wa ⁵⁵ zi ²⁴ pa ⁵⁵	zla ba bzhi pa
五月	nda ³¹ wa ⁵⁵ ŋa ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba lnga pa
六月	nda ³¹ wa ⁵⁵ tʂu ³¹ pa ⁵⁵	zla ba drug pa
七月	nda ³¹ wa ⁵⁵ den ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba bdun pa

八月	nda ³¹ wa ⁵⁵ dze ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba brgyad pa
九月	nda ³¹ wa ⁵⁵ gə ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba dgu pa
十月	nda ³¹ wa ⁵⁵ tei ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba bcu pa
十一月	nda ³¹ wa ⁵⁵ teu ⁵⁵ tei ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba bcu gcig pa
十二月	nda ³¹ wa ⁵⁵ teu ⁵⁵ ŋi ⁵⁵ pa ⁵⁵	zla ba bcu gnyis pa
月初め	nda ³¹ ngu ⁵⁵	zla mgo
月末	nda ³¹ ndzu ⁵⁵	zla mjug
昼夜	ŋi ²⁴ tshen ⁵⁵	nyin mtshan
半日	ŋi ²⁴ tehe ⁵⁵	nyin phyed
東	ea ⁵⁵	shar
南	lu ⁵⁵	lho
西	nu ²⁴	nub
北	tean ²⁴	byang
半月	nda ³¹ wa ⁵⁵ tehe ⁵⁵ kha ⁵⁵	zla ba phyed kha
日ごろ	ty ³³ tey ⁵⁵	dus rgyun
チベット暦新年	pə ⁵⁵ lo ⁵⁵ sa ⁵⁵	bod lo sar
チベット暦一日	tshe ⁵⁵ tei ⁵⁵	tshes gcig

(三) 植物

語義	松林語	蔵文形式
木材	doŋ ²⁴ pu ⁵⁵	sdong po
ヒバ	əou ⁵⁵ pa ⁵⁵	shug pa
柳	teoŋ ⁵⁵ maŋ ⁵⁵	lcang ma
花	mə ³¹ to ⁵⁵	me tog
籐	ein ³¹ tha ⁵⁵	shing tha
果物	ein ⁵⁵ tho ⁵⁵	shing tog
わら	soŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	sog ma
綿花	tʂɿ ³¹ nbie ²⁴	srin bal
ひまわり	ŋi ³¹ ma ⁵⁵ mə ⁵⁵ to ⁵⁵	nyi ma me tog
	nə ³¹ ma ⁵⁵ mo ⁵⁵ to ⁵⁵	nyi ma me tog
こんにく	ko ³¹ pa ⁵⁵	sgog pa
大根	la ³¹ pəŋ ⁵⁵	la phug
松脂	thaŋ ³¹ tehou ⁵⁵	thang chu
ぶどう	ʒy ⁵⁵ nbzu ⁵⁵	dgun 'bru

殻	pa ³¹ pa ⁵⁵	pags pa
果物の皮	ɛin ⁵⁵ tho ⁵⁵ pa ³¹ pa ⁵⁵	shing tog pags pa
松茸	pi ³¹ ɛa ⁵⁵	spen sha
ぬか	phəŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	phu mag
蕎麦	pza ³¹ wu ⁵⁵	bra bo

(四) 動物

語義	松林語	蔵文形式
虎	a ³¹ wu ⁵⁵ ta ⁵⁵	a bo stag
鳩	phoŋ ⁵⁵ zen ⁵⁵	phug ron
獣の爪	ɕe ⁵⁵ mu ⁵⁵	sder mo
尾	ndzoŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	mjug ma
巢	tshoŋ ⁵⁵	tshang
蜂	dzo ⁵⁵	< 口語 < sbrang
はえ	nba ³¹ naŋ ⁵⁵	sbrang nag
蛙	bi ³¹ pa ⁵⁵	sbal pa
ろば	tʂɥ ²⁴	drel
らば	ku ⁵⁵ zu ⁵⁵	ku ru
ぶた小屋	pha ⁵⁵ khon ⁵⁵	phag khang
猫	a ⁵⁵ li ⁵⁵	a li / a le
おす猫	li ⁵⁵ phu ⁵⁵	li pho / le pho
めす猫	li ⁵⁵ mu ⁵⁵	li mo / le mo
うさぎ	ʒi ³¹ kuŋ ⁵⁵	ri bong
野獣	tein ⁵⁵ zin ⁵⁵	gcan gzan
ライオン	sin ⁵⁵ ci ⁵⁵	seng ge
熊胆	toŋ ²⁴ tʂhɿ ⁵⁵	dom mkhris
猪	pha ⁵⁵ cø ⁵⁵	phag rgod
鹿	ɛa ⁵⁵ wa ⁵⁵	shwa ba
狐	wa ²⁴	wa
狼	ɛoŋ ⁵⁵ khu ⁵⁵	spyang khu
ヤク	ndzu ⁵⁵	mdzo
らくだ	tɛn ⁵⁵ ŋa ⁵⁵ mu ⁵⁵	< 口語
象	loŋ ⁵⁵ bu ³¹ tehi ⁵⁵	glang bu che
象牙	loŋ ⁵⁵ bu ³¹ tehi ⁵⁵ teho ³¹ wa ⁵⁵	glang bu che mche ba

鷹	tʂha ⁵⁵	khra
孔雀	ma ⁵⁵ tea ⁵⁵	rma bya
オウム	a ³¹ wu ⁵⁵ ŋi ⁵⁵ tsu ⁵⁵	a bo ne tso
麝香	la ⁵⁵ tsɿ ⁵⁵	gla rtsi
野うさぎ	ʒɿ ³¹ kuŋ ⁵⁵	ri bong
ハリネズミ	gon ²⁴ thy ⁵⁵	rgang + 口語
亀	ʒɿ ³¹ pi ⁵⁵	rus sbal
稚魚	na ³¹ pu ²⁴	nya bu
おす馬	nbzɔŋ ²⁴ ta ⁵⁵ phu ⁵⁵	+ rta pho
めす馬	ʒø ⁵⁵ ma ⁵⁵	dgod ma
子馬	nbzɔŋ ²⁴ ki ⁵⁵ wu ⁵⁵	+ rte'u
羊	lu ²⁴	lug
山羊	zɔ ²⁴	ra
おす山羊	zɔ ²⁴ phu ⁵⁵	ra pho
めす山羊	zɔ ²⁴ mu ⁵⁵	ra mo
おすロバ	tʂɿ ²⁴ phu ⁵⁵	drel pho
めすロバ	tʂɿ ²⁴ mu ⁵⁵	drel mo
番犬	gə ⁵⁵ tehi ⁵⁵	sgo khyi
猟犬	ea ⁵⁵ tehi ⁵⁵	sha khyi
蹄	me ⁵⁵ pa ⁵⁵	rmig pa
蹄鉄	me ⁵⁵ tea ⁵⁵	rmig lcags
鳥の病気	tea ³¹ ŋi ⁵⁵	bya nad
犬の病気	tehi ³¹ ŋi ⁵⁵	khyi nad
ぶたの病気	pha ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	phag nad
はげわし	ngo ⁵⁵	rgod

(五) 住居・器具

語義	松林語	藏文形式
場所	sa ⁵⁵ tcha ⁵⁵	sa cha
町	tʂon ³¹ tehin ⁵⁵ noŋ ⁵⁵	grong chen nang
村	tʂon ³¹ pa ⁵⁵	grong pa
台所	tha ⁵⁵ tshon ⁵⁵	thab tshang
中華鍋	tʂhu ⁵⁵	khro
トイレ	tea ⁵⁵ khon ⁵⁵	skyag khang

柱	ka ⁵⁵ wa ⁵⁵	ka ba
玄関	dza ³¹ ku ⁵⁵	rgyal sgo
窓	gə ⁵⁵ teɪŋ ⁵⁵	sge`u chung
ほうき	teha ²⁴ ma ⁵⁵	phyags ma
もの	teə ⁵⁵ la ⁵⁵	ca lag
ベッド	tʂhɿ ⁵⁵	khri
テーブル/椅子	teou ⁵⁵ tsɿ ⁵⁵	lcog rtse
水がめ	tehi ⁵⁵ zə ⁵⁵	chu ra
陶器のかめ	dza ³¹ poŋ ²⁴	rdza bum
びん	ei ⁵⁵ ten ⁵⁵	shel dam
箸	kha ⁵⁵ thy ⁵⁵	kha thur
鍵	ɕe ³¹ me ⁵⁵	lde mig
タオル	la ²⁴ ze ⁵⁵	lag ras
針	khe ²⁴	khab
雨傘	ŋi ³¹ dəŋ ⁵⁵	nyi gdugs
自転車	teə ⁵⁵ ta ⁵⁵	lcags rta
製粉小屋	teho ³¹ ko ²⁴	chu skor
梁	dəŋ ²⁴ tein ⁵⁵	gdung shing
木材	ei ⁵⁵ teha ⁵⁵	shing cha
壁	teoŋ ²⁴	gyang
レンガの壁	tse ⁵⁵	rtseg
箱	ʃen ²⁴	sgam
電灯	lo ⁵⁵	glog
電球	lo ⁵⁵	glog
電線	lo ⁵⁵ cy ⁵⁵	glog skud
鐘	khaŋ ⁵⁵ ŋaŋ ⁵⁵	`khar mga
盆	dəŋ ³¹ phen ⁵⁵	sder + 漢語
鏡	ei ⁵⁵ ku ⁵⁵	shel sgo
鉄鍋	tʂhu ⁵⁵	khro
ひしゃく	zə ³¹ eu ⁵⁵	+ skyogs
木製椀	go ³¹ pho ⁵⁵	? phor
皿	ka ⁵⁵ te ⁵⁵	dkar sder
砥石	da ⁵⁵ du ⁵⁵	rdar rdo
壺	tan ³¹ pi ⁵⁵	dam be
工具	la ²⁴ teha ⁵⁵	lag cha
鉄製ハンマー	teə ⁵⁵ to ³¹ wa ⁵⁵	lcags tho ba

のこぎり	su ⁵⁵ li ⁵⁵	sog le
かな	nbə ³¹ lin ⁵⁵	'bur len
のみ	zəŋ ⁵⁵	gzong
鉄製ワイヤー	teə ⁵⁵ cy ⁵⁵	lcags skud
銃	mi ⁵⁵ nda ⁵⁵	me mda'
弾丸	ndi ⁵⁵ wu ⁵⁵	mde'u
弾頭	ndi ⁵⁵ ngu ⁵⁵	mde'u mgo
薬莖	ndi ⁵⁵ ko ⁵⁵	mde'u ?
矛	ndəŋ ⁵⁵	mdung
おもがい	taŋ ⁵⁵ thy ⁵⁵	rta mthur
くつわ	sɛ ⁵⁵	srab
鞍	ga ⁵⁵	sga
あぶみ	jo ²⁴	yob
手綱	thoŋ ⁵⁵ ku ⁵⁵	thag 'go
やすり	sa ⁵⁵ ta ⁵⁵	sa rdar
きり	nbəŋ ²⁴	'bug
鈴	tɕɿ ³¹ pu ⁵⁵	dril bu
腕時計	tehø ⁵⁵ tshø ⁵⁵	chu tshod
眼鏡	me ⁵⁵ ei ⁵⁵	dmig shel
財布	ŋy ⁵⁵ khu ⁵⁵	dngul khug
のこぎりくず	so ⁵⁵ tsen ⁵⁵	sog rtsam
ひき臼	la ³¹ ko ⁵⁵	lag skor
ひげそり刀	kha ⁵⁵ pu ⁵⁵ ze ²⁴ ci ⁵⁵	kha spu bzhar +
ドアノブ	go ⁵⁵ jo ⁵⁵	sgo yu
のれん	go ⁵⁵ eo ⁵⁵	sgo shubs
飛行機	na ⁵⁵ tɕɿ ⁵⁵	gnam gru
貯水池	tehi ⁵⁵ zin ⁵⁵	chu rdzing
刃物の鞘	tɕɿ ³¹ eu ⁵⁵	gri shubs
荷物	teə ⁵⁵ la ⁵⁵	ca lag
鉄橋	teə ⁵⁵ ndze ⁵⁵	lcags 'dzam*
バター灯	tehø ⁵⁵ mi ⁵⁵	mchod me

(六) 服飾・飲食

語義	松林語	蔵文形式
袖	phə ⁵⁵ ndəŋ ⁵⁵	phu thung
ズボン	ŋəŋ ⁵⁵ pu ⁵⁵	snam bu
指輪	la ²⁴ dʒi ⁵⁵	lag ? < 口語
ブレスレット	la ²⁴ tchin ⁵⁵	lag ?
粉末	ndzo ²⁴	< 口語
肉まん	mo ³¹ mo ⁵⁵	mog mog
ラード	pha ⁵⁵ tshɿ ⁵⁵	phag tshil
塩	tsha ⁵⁵	tsha
蒸留酒	a ⁵⁵ zɑ ⁵⁵	a rag
布	zɛ ²⁴	ras
糸	cy ⁵⁵ pa ⁵⁵	skud pa
袖	phən ⁵⁵ təŋ ⁵⁵	phu thung
スカート	ŋin ⁵⁵ jou ⁵⁵	smad g.yogs
襟	koŋ ³¹ wa ⁵⁵	gong ba
ブーツ	pø ³¹ hen ⁵⁵	bod lham
手袋	la ²⁴ eu ⁵⁵	lag shubs
肋骨	tsə ⁵⁵ ma ⁵⁵	rtsib ma
スープ	kho ³¹ wa ⁵⁵	khu ba
黒砂糖	pə ³¹ zɛn ⁵⁵	bu ram
油	ŋəŋ ²⁴	snum
ラード	pha ⁵⁵ tshɿ ⁵⁵	phag tshil
牛乳	oŋ ³¹ maŋ ⁵⁵	'o ma
カタ	kha ⁵⁵ ta ⁵⁵	kha btags
模様のある布	zɛ ³¹ tʂha ⁵⁵	ras khra
猫目石	zɿ ²⁴	gzi
珊瑚	teo ³¹ zɿ ⁵⁵	byu ru
ターコイズ	ju ⁵⁵	g.yu
麺	pa ³¹ thu ⁵⁵	< 口語

(七) 身体・医療

語義	松林語	蔵文形式
額	thø ⁵⁵ pa ⁵⁵	thod pa
眉	me ⁵⁵ phu ⁵⁵	dmig spu
鼻水	ŋa ⁵⁵ tehou ⁵⁵	sna chu
唇	tehi ³¹ phu ⁵⁵	mchu + ?
ひげ	kha ⁵⁵ pu ⁵⁵	kha spu
首	ka ⁵⁵ lon ⁵⁵	ske + ? < 口語
喉	oŋ ³¹ tsø ²⁴	ol mdud
肩	pa ⁵⁵ ku ⁵⁵	dpung pa
右手	tʂoŋ ⁵⁵ la ⁵⁵	grang lag
拳	gu ³¹ tsu ⁵⁵	khu tshur
爪	se ³¹ mu ⁵⁵	sen mo
ひざ	bi ³¹ ŋəŋ ⁵⁵	pus mo
背中	ci ²⁴ tshɿ ⁵⁵	sgal tshigs
ほくろ	ŋin ⁵⁵ wa ⁵⁵	sme ba
薬	ŋin ⁵⁵	sman
身体	zu ³¹ pu ⁵⁵	gzugs po
皮膚	pa ⁵⁵ pa ⁵⁵	pags pa
骨髄	koŋ ⁵⁵	rkang
胃	noŋ ³¹ teha ⁵⁵	nang cha
胆	tʂhɿ ⁵⁵ pa ⁵⁵	mkhris pa
脈	tʂa ⁵⁵	rtsa
血管	tʂha ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	khrag rtsa
脳髄	lø ⁵⁵ pa ⁵⁵	klad pa
後頭部	ngo ³¹ toŋ ⁵⁵	mgo thod
白髪	tʂa ⁵⁵ ka ⁵⁵	skra dkar
まつ毛	me ⁵⁵ pu ⁵⁵	dmig spu
門歯	su ⁵⁵ ku ⁵⁵	so sgo
犬歯	teho ³¹ wa ⁵⁵	mche ba
歯茎	sɿ ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	so rnyil
ほおひげ	dza ⁵⁵ wu ⁵⁵	rgya bo
手のひら	la ²⁴ thi ⁵⁵	lag mthil
唾	kha ⁵⁵ tehou ⁵⁵	kha chu
病院	ŋiɛ ⁵⁵ khon ⁵⁵	sman khang

軽い病気	ŋe ²⁴ jan ²⁴ jan ⁵⁵	nad yang yang
大病	ŋe ²⁴ dzin ²⁴ dzin ⁵⁵	nad ljid ljid
薬	ɲin ⁵⁵	sman
薬用水	ɲin ⁵⁵ tehu ⁵⁵	sman chu
薬用酒	ɲin ⁵⁵ za ⁵⁵	sman rag
薬草	ɲin ⁵⁵ tsa ⁵⁵	sman rtswa
めまい	ngu ⁵⁵ jon ⁵⁵ kho ⁵⁵	mgo yur 'khor
ハンセン病	ndzə ⁵⁵ ŋe ⁵⁵	mdze nad
脱臼	tshə ²⁴ tho ³¹ lo ⁵⁵	tshigs mthud log
傷口	ma ⁵⁵ kha ⁵⁵	rma kha
鼻血	ŋa ⁵⁵ tʂha ⁵⁵	sna khrag
梅毒	so ⁵⁵ mu ⁵⁵	bse mog
腹の張った	bø ²⁴	sbos
動脈	tʂa ⁵⁵	rtsa
静脈	tʂha ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	khrag rtʂa
脊椎	je ⁵⁵ zɔŋ ⁵⁵	sgal rus
手形	la ³¹ thi ⁵⁵ zɪ ³¹ mu ⁵⁵	lag mthil ri mo
指紋	zɪ ³¹ mu ⁵⁵	ri mo
病人	ŋe ³¹ pa ⁵⁵	nad pa
看護師	ŋi ³¹ ju ⁵⁵	nad g.yog
脱臼	lo ⁵⁵	log
肺結核/気管炎	lo ⁵⁵ wa ⁵⁵ ŋe ²⁴	glo ba nad
精神障がい者	ŋø ⁵⁵ pa ⁵⁵	smyon pa
新月皮	ein ⁵⁵ ŋø ⁵⁵ pa ³¹ pa ⁵⁵	shing sngon pags pa
貝母	ja ⁵⁵ tʂu ⁵⁵	g.ya' gro

(八) 冠婚葬祭・信仰

語義	松林語	蔵文形式
仲人	ŋe ⁵⁵ po ⁵⁵	gnyen po
新郎	tsha ⁵⁵ wu ⁵⁵	tsha bo
双子	tshɪ ⁵⁵ maŋ ⁵⁵	mtsher ma
棺	zɪ ³¹ jen ⁵⁵	ro sgam
神	kun ⁵⁵ tehu ⁵⁵ suŋ ⁵⁵	dkon mchog gsum
菩薩	la ⁵⁵	lha

観音	ein ⁵⁵ ze ⁵⁵ ze ⁵⁵	spyan ras gzigs
寺	njə ⁵⁵ nba ⁵⁵	dgon pa
尼	teou ³¹ mu ⁵⁵	jo mo
寿命	tsh ¹ ₁ ⁵⁵ zen ²⁴	tshe ring
歳	lu ²⁴	lo
仏	la ⁵⁵	lha
経典	tehy ⁵⁵ ji ⁵⁵	chos yig
火の玉	mi ⁵⁵ ndz ¹ ₁ ⁵⁵	me 'dre
鳳凰	tea ³¹ tehə ¹ ₁ ⁵⁵	bya khyung
背後霊	dza ⁵⁵ la ⁵⁵	rgyab lha
土地の神	sa ⁵⁵ ta ⁵⁵	sa bdag
法具	tehy ⁵⁵ teha ⁵⁵	chos cha
ゲルク派	gə ³¹ lən ⁵⁵ pa ⁵⁵	dge lugs pa
化身	la ⁵⁵ jen ⁵⁵	bla rgan
マニ車	lan ³¹ kho ⁵⁵	lag 'khor
マニ石積み	tən ⁵⁵ pən ⁵⁵	rdo 'bum
ルンタ	lon ⁵⁵ ta ⁵⁵	rlung rta
ルンタ旗	ta ³¹ teu ⁵⁵	dar lcog
数珠	phzen ⁵⁵ wan ⁵⁵ tšan ²⁴	phreng ba bgrang
祈願	mə ⁵⁵ lien ⁵⁵	smon lam
神木	ha ⁵⁵ ein ⁵⁵	lha shing
釈迦牟尼	dza ³¹ wu ⁵⁵ ea ⁵⁵ tea ⁵⁵ thur ⁵⁵ pa ⁵⁵	rgyal po shA kya thub pa

(九) 人物

語義	松林語	蔵文形式
独身	tei ⁵⁵ tean ⁵⁵	gcig rkyang
子供	ka ²⁴ ka ⁵⁵	< 口語
親戚	no ³¹ wa ⁵⁵	nye ba
客	ndzə ²⁴ pu ⁵⁵	'grul po
農民	mə ³¹ si ⁵⁵	mi ser
商人	tshən ⁵⁵ nba ⁵⁵	tshong pa
泥職人	ndan ⁵⁵ zu ⁵⁵	'dam bzo
大工	ein ⁵⁵ zu ⁵⁵	shing bzo
師匠	je ³¹ jen ⁵⁵	dge rgan

弟子	gə ³¹ tʂhu ⁵⁵	dge phrug
泥棒	kə ⁵⁵ maŋ ⁵⁵	rku ma
目の見えない人	lən ³¹ wa ⁵⁵	long ba
背の曲がった人	ji ⁵⁵ lo ⁵⁵	sgur po
狂人	ŋəŋ ⁵⁵ pa ⁵⁵	smyon pa
父母	pha ⁵⁵ maŋ ⁵⁵	pha ma
姉/妹	se ⁵⁵ mu ⁵⁵	sring mo
若い	lə ³¹ tehuŋ ⁵⁵	lo chung
労働者	zɿ ²⁴ pa ⁵⁵	bzo pa
役人	ngə ⁵⁵ tʂhɿ ⁵⁵	mgo khrid
医者	ŋin ⁵⁵ pa ⁵⁵	sman pa
狩人	ŋø ⁵⁵ pa ⁵⁵	rngon pa
屠殺者	een ⁵⁵ pa ⁵⁵	bshan pa
店主	tshoŋ ⁵⁵ pø ⁵⁵	tshong dpon
強盗	tea ³¹ pa ⁵⁵	jag pa
太った人	ea ⁵⁵ tea ⁵⁵ pa ⁵⁵	sha rgyags pa
松林人の民族	pø ³¹ zɿ ⁵⁵	bod rigs
漢族	dza ⁵⁵	rgya
平民	mə ³¹ se ⁵⁵	mi ser
主人	da ⁵⁵ pu ⁵⁵	bdag po
兵士	maŋ ⁵⁵ mi ⁵⁵	dmag mi
先生	gə ³¹ jen ⁵⁵	dge rgan
学生	la ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	slob grwa
敵	dza ⁵⁵ ja ⁵⁵	dgra + ?
王	dza ³¹ pu ⁵⁵	rgyal po
石工	du ⁵⁵ zu ⁵⁵	rdo bzo
鍛冶屋	nga ⁵⁵ wa ⁵⁵	mgar ba
漁師	na ³¹ pa ⁵⁵	nya pa
囚人	tsø ⁵⁵ nba ⁵⁵	btson pa
孤児	ta ³¹ wu ⁵⁵	dwa bu
父子	pha ⁵⁵ wu ⁵⁵	pha bu
母子	ma ⁵⁵ wu ⁵⁵	ma bu
料理人	ma ²¹ tein ⁵⁵	ma chen
チベット族	pø ³¹ ze ⁵⁵	bod rigs
高地チベット人	sa ⁵⁵ tø ⁵⁵ pu ⁵⁵	sa stod po
インド人	dza ³¹ ka ⁵⁵ pu ⁵⁵	rgya gar po

キャラバン	tʂɿ ³¹ pa ⁵⁵	'grul pa
後裔	mə ³¹ tɛy ²⁴	mar rgyud
会計	tʂɿ ⁵⁵ tʂu ⁵⁵ dzɛ ⁵⁵ mi ⁵⁵	rtsis bgrang rgyag mi
ラサ人	la ⁵⁵ sa ⁵⁵ pu ⁵⁵	lha sa po
英雄	pa ⁵⁵ wu ⁵⁵	dpa' bo
牧民	ndzɔ ³¹ pa ⁵⁵	'brog pa
恋人	ga ³¹ zɔ ⁵⁵	dga' rogs
貧しい人	wu ⁵⁵ pu ⁵⁵	dbul po
奴隷	tʂɛn ³¹ joŋ ⁵⁵	bran g.yog
野人	mə ⁵⁵ ʃɔ ⁵⁵	mi rgod

(十) 農・工・商・文化

語義	松林語	蔵文形式
力仕事	li ³¹ kha ⁵⁵	las ka
事柄	tɔ ³¹ nda ⁵⁵	don dag
鋤	tea ⁵⁵ ndzo ⁵⁵	lcags 'jor
取っ手	jo ³¹ wa ⁵⁵	yu ba
車輪	kho ⁵⁵ lu ⁵⁵	'khor lo
ひき臼	la ³¹ ko ⁵⁵	lag skor
ハンマー	tho ³¹ wa ⁵⁵	tho ba
釘	tea ⁵⁵ ndzin ⁵⁵	lcags 'dzer
こん棒	pi ³¹ ga ⁵⁵	< 口語
店	tshəŋ ⁵⁵ khəŋ ⁵⁵	tshong khang
レストラン	za ³¹ khəŋ ⁵⁵	za khang
価格	kəŋ ²⁴	gong
資本金	ma ³¹ tʂa ⁵⁵	ma rtsa
お金	taŋ ³¹ jin ⁵⁵	< 口語 < 漢語
給料	la ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	gla cha
秤	ndza ⁵⁵ ma ⁵⁵	rgya ma
市場	tshəŋ ⁵⁵ za ⁵⁵	tshong ra
学校	la ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	slob grwa
教室	la ⁵⁵ khəŋ ⁵⁵	slob khang
本/手紙	ji ³¹ ci ⁵⁵	yi ge
どら	khəŋ ⁵⁵ ŋəŋ ⁵⁵	'khar mnga

二胡	pin ⁵⁵ wu ⁵⁵	pi wang
笛	li ³¹ wu ⁵⁵	gling bu
民話	taŋ ⁵⁵ pi ⁵⁵	gtam dpe
鉄の鋏	tea ⁵⁵ eo ⁵⁵	lcags gshol
風車	loŋ ⁵⁵ kho ⁵⁵	rlung 'khor
牛小屋	pa ³¹ khoŋ ⁵⁵	ba khang
馬小屋	ta ⁵⁵ khoŋ ⁵⁵	rta khang
羊小屋	lu ²⁴ za ⁵⁵	lug ra
鶏舎	tea ³¹ khoŋ ⁵⁵	bya khang
機械	tʂhɿ ⁵⁵ teha ⁵⁵	'phrul cha
干支	lə ³¹ ein ⁵⁵	lo shing
たつ年	lə ³¹ ein ⁵⁵ ndzu ⁵⁵	lo shing 'brug
国家	dza ³¹ kha ⁵⁵	rgyal khab
政府	se ⁵⁵ zoŋ ⁵⁵	srid gzhung
省	zin ³¹ tehen ⁵⁵	zhing chen
県	dzuŋ ⁵⁵	rdzong
村	tʂəŋ ³¹ pa ⁵⁵	grong pa
はんこ	the ⁵⁵	thal
記号	ta ²⁴	rtags
ペン	tʂɿ ³¹ thu ⁵⁵	bri thog
紙	ea ³¹ wu ⁵⁵	shog bu
本	ji ³¹ ci ⁵⁵ qe ⁵⁵	yi ge deb
どら	khaŋ ⁵⁵ ŋaŋ ⁵⁵	'khar rnga
シンバル	boŋ ³¹ tehin ²⁴	sbug chal
鼓	ŋa ⁵⁵	rnga
弦楽器	dza ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	sgra snyan
写真	pa ⁵⁵	par
色	ndo ⁵⁵ kha ⁵⁵	mdog kha
インク	ŋa ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	snag tsha
地図	sa ⁵⁵ tʂa ⁵⁵	sa khra
絵	pa ⁵⁵	par
字	ji ³¹ ci ⁵⁵	yi ge
計算	tʂɿ ⁵⁵	rtsi
球	po ⁵⁵ lo ⁵⁵	po lo
漢語	dza ⁵⁵ ci ⁵⁵	rgya skad
バイク	ba ³¹ ba ⁵⁵	sbag sbag

農具	ziŋ ³¹ pa ⁵⁵ la ⁵⁵ teha ⁵⁵	zhing pa lag cha
農作物	dzu ⁵⁵ zen ⁵⁵ na ⁵⁵ tsho ⁵⁵	'bru rigs sna tsho
国旗	dzi ³¹ ta ⁵⁵	rgyal dar
山羊用の罫	za ³¹ the ⁵⁵	ra theg
麝香鹿用の罫	la ⁵⁵ the ⁵⁵	gla theg
プロ (舞踊)	pzo ²⁴	bro

(十一) 数量

語義	松林語	藏文形式
十一	teou ⁵⁵ tei ⁵⁵	bcu gcig
十二	teou ⁵⁵ ŋi ⁵⁵	bcu gnyis
十三	tei ⁵⁵ səŋ ⁵⁵	bcu gsum
十四	tei ⁵⁵ zi ⁵⁵	bcu bzhi
十五	teø ⁵⁵ ŋa ⁵⁵	bco lnga
十六	tei ⁵⁵ tʂu ⁵⁵	bcu drug
十七	tei ⁵⁵ tin ⁵⁵	bcu bdun
十八	tei ⁵⁵ dze ⁵⁵	bco brgyad
十九	teou ⁵⁵ gu ⁵⁵	bcu dgu
二十	ŋi ⁵⁵ cou ⁵⁵	nyi shu
二十一	ŋi ⁵⁵ eu ⁵⁵ tʂa ⁵⁵ tei ⁵⁵	nyi shu rtsa gcig
三十	soŋ ⁵⁵ teou ⁵⁵	sum cu
四十	zi ²⁴ teou ⁵⁵	bzhi bcu
五十	ŋa ⁵⁵ teou ⁵⁵	lnga bcu
六十	tʂɿ ³¹ teou ⁵⁵	drug cu
七十	dɿ ⁵⁵ teou ⁵⁵	bdun cu
八十	dza ⁵⁵ teou ⁵⁵	brgyad cu
九十	gu ⁵⁵ teou ⁵⁵	dgu bcu
百	dza ⁵⁵	brgya
二百	ŋi ³¹ dza ⁵⁵	nyis brgya
三百	suŋ ⁵⁵ dza ⁵⁵	gsum brgya
四百	zi ²⁴ dza ⁵⁵	bzhi brgya
五百	ŋa ⁵⁵ dza ⁵⁵	lnga brgya
六百	dzu ³¹ dza ⁵⁵	drug brgya
七百	dʒim ⁵⁵ dza ⁵⁵	bdun brgya

八百	tee ⁵⁵ dza ⁵⁵	brgyad brgya
九百	gə ⁵⁵ dza ⁵⁵	dgu brgya
三千	təŋ ⁵⁵ soŋ ⁵⁵	stong gsum
三万	tʂhɿ ⁵⁵ soŋ ⁵⁵	khri gsum
二十万	tʂhɿ ⁵⁵ ŋi ³¹ eu ⁵⁵	khri nyi shu
第一	aŋ ⁵⁵ tuŋ ³¹ pu ⁵⁵	ang dang po
第二	ŋi ⁵⁵ pa ⁵⁵	gnyis pa
第三	suŋ ⁵⁵ pa ⁵⁵	gsum pa
ほとんど	pha ⁵⁵ tehi ⁵⁵	phal cher
半分	tehe ⁵⁵ kha ⁵⁵	phyed ka
(一) そろい	teha ⁵⁵	cha
両腕の幅の単位	ndon ³¹ nba ⁵⁵	'dom pa
親指の長さの単位	thu ⁵⁵	mtho
(一) 斤	tea ⁵⁵ maŋ ⁵⁵	rgya ma
(一) 両	soŋ ⁵⁵	srang
(一) 歩	koŋ ³¹ nba ⁵⁵	gom pa

(十二) 性質・状態

語義	松林語	蔵文形式
太った	ea ⁵⁵ dza ⁵⁵	sha rgyags
紫	dzon ²⁴ khu ⁵⁵	ljang khu
ゆるい	lθ ⁵⁵	lhod
きつい	tɛn ²⁴	dam
簡単な	li ²⁴ la ⁵⁵	las sla
難しい	ka ⁵⁵ mu ⁵⁵	dka' mo
味	tʂɿ ³¹ ma ⁵⁵	bro ma
酸っぱい	tey ⁵⁵	skyur
縦の	tʂaŋ ³¹ tʂaŋ ⁵⁵	drang drang
生の	dzɛn ⁵⁵ pa ⁵⁵	rjen pa
はっきりした	si ⁵⁵ si ⁵⁵	gsal gsal
正確な	ta ⁵⁵ ta ⁵⁵	tag tag
かわいそうな	dʒi ⁵⁵ pa ⁵⁵	sdug pa

付記

本稿にかかる現地調査は、主に 2017-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(A)「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」(研究代表者: 鈴木博之、課題番号 17H04774) および 2018-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究」(研究代表者: 遠藤光暁、課題番号 18H00670) の援助による。なお、本稿は 2022-2027 年中国国家社会科学基金青年項目「滇西北藏語方言語法接觸研究」(研究代表者: 次林央珍、課題番号 22CYY045) の成果の一部である。

参考文献

- Bartee, Ellen Lynn (2007) *A grammar of Dongwang Tibetan*. PhD dissertation, University of California at Santa Barbara.
- Denwood, Philip (1999) *Tibetan*. Amsterdam: John Benjamins. doi: <https://doi.org/10.1075/loall.3>
- DTLF = Les Missionnaires Catholiques du Thibet (1899) *Dictionnaire thibétain-latin-français*. Hong Kong: Imprimerie de la Société des Missions Étrangères.
- Endo, Mitsuaki, Makoto Minegishi, Satoko Shirai, Hiroyuki Suzuki, and Keita Kurabe (eds) (2021) *Linguistic atlas of Asia*. Tokyo: Hituzi Syobo.
- Häsler, Katrin Louise (1999) *A grammar of the Tibetan Dege རྫོང་དགེ་ (Sde dge) dialect*. München: Selbstverlag.
- Hongladarom, Krisadawan (1996) Rgyalthang Tibetan of Yunnan: a preliminary report. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 19(2): 69–92. doi: <https://doi.org/10.15144/LTBA-19.2.69>
- 江荻 (2002) 《藏語語音史研究》北京: 民族出版社.
- 江荻 (2005) 《義都語研究》北京: 民族出版社.
- 格桑居冕[sKal-bzang 'Gyur-med]、格桑央京[sKal-bzang dByangs-can] (2002) 《藏語方言概論》北京: 民族出版社.
- 格桑居冕[sKal-bzang 'Gyur-med]、格桑央京[sKal-bzang dByangs-can] (2004) 《實用藏文文法教程 [修訂本]》成都: 四川民族出版社.
- 李大勤 (2002) 《格曼語研究》北京: 民族出版社.
- 劉潔 (2021) 《西藏察隅松古扎話研究》中央民族大学博士論文.
- de Nebesky-Wojkowitz, René (1956) *Oracles and demons of Tibet: The cult and iconography of the Tibetan protective deities*. 's-Gravenhage: Mouton.
- 西田龍雄 (1963) 「十六世紀における西康省チベット語天全方言について---漢語・チベット語単語集いわゆる三種本『西番館譯語』の研究---」『京都大学文学部研究紀要』7: 85–174. URI: <http://hdl.handle.net/2433/72922>
- 西田龍雄 (1987) 「チベット語の変遷と文字」長野泰彦・立川武蔵編『チベットの言語と文化』108–169. 東京: 冬樹社.
- Qin, Liying and Hiroyuki Suzuki (2016) Chasing a cat from the Mekong to the Salween: A geolinguistic

- description of 'cat' in Trung and Khams Tibetan in North-western Yunnan. *Studies in Asian Geolinguistics* 1: 61–71. URI: https://publication.aa-ken.jp/sag1_sun_2016.pdf
- 瞿霽堂 (1990) 《藏語韻母研究》西寧：青海民族出版社。
- 瞿霽堂、金效靜 (1981) 《藏語方言的研究方法》《西南民族學院學報》3: 76–84。
- 瞿霽堂、譚克讓 (1986) 《阿里藏語》北京：社会科学出版社。
- 邵明園 (2018) 《河西走廊瀕危藏語東納話研究》廣州：中山大學出版社。
- 宋成、謝穎瑩、李大勤、李佐文 (2019) 《西藏察隅松林語》北京：商務印書館。
- STEDT = The Sino-Tibetan etymological dictionary and thesaurus. Online database. <https://stedt.berkeley.edu/~stedt/cgi/rootcanal.pl>
- 鈴木博之 (2007a) 「川西民族走廊・チベット語方言研究 チベット語方言分類語彙資料集」京都大学博士論文別冊資料. doi: <https://doi.org/10.14989/doctor.k12734>
- 鈴木博之 (2007b) 「甘孜州郷城県カムチベット語の方言特徴」『ニダバ』36: 17–26. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045548>
- 鈴木博之 (2007c) 「チベット語中路[sProsnang]方言の/r/を含む子音連続」『東京大学言語学論集』26: 31–47.
- 鈴木博之 (2008) 「迪慶州瀾滄江流域カムチベット語（徳欽/雲嶺/燕門/巴迪方言）の方言特徴」『ニダバ』37: 115–124. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045549>
- 鈴木博之 (2009a) 「川西民族走廊・チベット語方言分類語彙集」長野泰彦編『チベット文化圏における言語基層の解明—チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンシュン語の解読 (No. 16102001) 研究成果報告書』2: i–xxii+1–457. 吹田：国立民族学博物館. URI: <http://hdl.handle.net/10502/4342>
- 鈴木博之 (2009b) 「カムチベット語奔子欄[sPomtserag]方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』4: 219–258. doi: <https://doi.org/10.15026/61392>
- 鈴木博之 (2009c) 「《西番譯語》〈川七〉18世紀チベット語打箭爐方言の性格について」『京都大学言語学研究』28: 33–63. doi: <https://doi.org/10.14989/141799>
- Suzuki, Hiroyuki (2009a) Deux remarques à propos du développement du *ra-btags* en tibétain parlé. *Revue d'études tibétaines* 16: 75–82. URI: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_16_03.pdf
- Suzuki, Hiroyuki (2009b) Origin of non-Tibetan words in Tibetan dialects of the Ethnic Corridor in West Sichuan. In Yasuhiko Nagano (ed.) *Issues in Tibeto-Burman Historical Linguistics*, 71–96. Suita: National Museum of Ethnology. doi: <https://doi.org/10.15021/00002558>
- 鈴木博之 (2010) 「カムチベット語香格里拉県浪都[Lamdo]方言の方言所属」『国立民族学博物館研究報告』35(1): 231–264. doi: <https://doi.org/10.15021/00003898>
- 鈴木博之 (2011) 〈在音變過程中產生又消失的軟顎化元音—雲南徳欽燕門郷穀扎藏語之例—〉《京都大学言語学研究》30: 35–49. doi: <https://doi.org/10.14989/159068>
- Suzuki, Hiroyuki (2011) Deux remarques supplémentaires à propos du développement du *ra-btags* en

- tibétain parlé. *Revue d'études tibétaines* 20: 123–133. URI: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_20_05.pdf
- 鈴木博之 (2012a) 「カムチベット語 Sangdam 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』 83: 37–58. doi: <https://doi.org/10.15026/69336>
- 鈴木博之 (2012b) 「甘肅省甘南州卓尼県のチベット語方言について—蔵文対応形式から見た扎古録 [Bragkhoglung] 方言の方言特徴—」『京都大学言語学研究』 31: 1–23. doi: <https://doi.org/10.14989/182195>
- 鈴木博之 (2012c) 「カムチベット語雲嶺・査里通 [Tsharethong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』 7: 155–194. doi: <https://doi.org/10.15026/73110>
- 鈴木博之 (2013) 〈雲南維西蔵語的 r 介音語音演變—兼談“兒化”與“緊喉”之交叉關係—〉《東方語言學》 13: 20–35.
- Suzuki, Hiroyuki (2013) Extraordinary sound development of *s and *z in mBalhag Tibetan (Shangri-La, Yunnan). *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 36(1): 101–110. doi: <https://doi.org/10.15144/LTBA-36.1.101>
- 鈴木博之 (2014) 「カムチベット語丙中洛 [Bodgrong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』 9: 153–193. doi: <https://doi.org/10.15026/80349>
- 鈴木博之 (2015) 《東方藏區諸語言研究》 成都：四川民族出版社。
- 鈴木博之 (2016) 〈藏語方言學研究與語言地圖：如何看待“康方言”〉《民族學刊》 2: 1–13+92–94.
- Suzuki, Hiroyuki (2016) In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. *Researches in Asian Languages* 10: 99–125. URI: <http://id.nii.ac.jp/1085/00002195/>
- 鈴木博之 (2017) 「カムチベット語翁上 [dNgo] 方言の音体系に関する覚え書き」『ニダバ』 46: 35–43. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045562>
- 鈴木博之 (2018a) 「カムチベット語芒康・江仲 [sMarling] 方言の方言特徴」『ニダバ』 47: 41–49. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045563>
- 鈴木博之 (2018b) 「香格里拉市北部のカムチベット語諸方言の方言特徴とその形成」『アジア・アフリカ言語文化研究』 95: 5–63. doi: <https://doi.org/10.15026/92458>
- Suzuki, Hiroyuki (2018) *100 linguistic maps of the Swadesh word list of Tibetic languages from Yunnan*. Fuchu: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. URI: https://publication.aaken.jp/sag_mono3_tibet_yunnan_2018.pdf
- 鈴木博之 (2019) 〈利用語言地圖闡明音變的擴散和界限：以香格里拉藏語的“r 韻尾”語音演變為例〉鈴木博之、倉部慶太、遠藤光暁 (編)《東部亞洲地理語言學論文集》 1–13. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. URI: https://publication.aaken.jp/sag_mono6_eastern_asian_2019.pdf
- Suzuki, Hiroyuki (2019) How Tibetans classify pigs in their languages in the eastern Tibetosphere: Revisiting the pig issue through geolinguistics. In Hiroyuki Suzuki, Keita Kurabe, and Mitsuaki Endo (eds) *Papers from the Workshop “Phylogeny, Migration, and Contact of East and Southeast Asian*

- Languages and Human Groups*”, 40–53. Fuchu: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa. URI: https://publication.aa-ken.jp/sag_mono7_phylogeny_dispersion_contact_2019.pdf
- 鈴木博之 (2020) 「カムチベット語捧八[Phongpa]方言のわたり音/h/」『ニダバ』49: 31–38. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049097>
- 鈴木博之 (2021a) 「カムチベット語察瓦龍[Tshawarong]方言の音声記述と語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』15: 105–137. doi: <https://doi.org/10.15026/99899>
- 鈴木博之 (2021b) 〈從地理語言学的角度看雲南藏語/l及/j的歷史發展〉鈴木博之、倉部慶太、遠藤光暁編《中国語言地理研究論文集》21–38. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. doi: <https://doi.org/10.15026/116769>
- Suzuki, Hiroyuki (2021a) Prenasalisation in Tibetic languages in the eastern Tibetosphere. *Studies in Asian and African Geolinguistics I—Consonant system—*, 102–109. URI: https://publication.aa-ken.jp/saag1_stop_series_2021.pdf
- Suzuki, Hiroyuki (2021b) Tibetic terms for ‘sow’ and ‘boar’ in re-interpretation and analogy: From ‘female pig’ to ‘pig-mother’ and then to ‘pig-father’. *Studies in Geolinguistics* 1: 30–40. doi: <https://doi.org/10.5281/zenodo.5529236>
- 鈴木博之 (2022a) 〈語音演變的地理語言學解釋：以雲南香格里拉藏語為例〉《常熟理工學院學報》1: 58–64.
- 鈴木博之 (2022b) 「東部チベット系諸言語における「野うさぎ」の語形：チベット文語形式との音対応を中心に」『地理言語学研究』2: 40–52. doi: <https://doi.org/10.5281/zenodo.7121520>
- 鈴木博之 (2022c) 「カムチベット語捧八[Phongpa]方言の方言所属」『東京大学言語学論集』44: e133–e147. doi: <https://doi.org/10.15083/0002005845>
- Suzuki, Hiroyuki (2022a) *Geolinguistics in the eastern Tibetosphere: An introduction*. Tokyo: Geolinguistic Society of Japan. doi: <https://doi.org/10.5281/zenodo.5989176>
- Suzuki, Hiroyuki (2022b) Glottonyms, identity, and language recognition in the eastern Tibetosphere. In Gerald Roche and Gwendolyn Hyslop (eds) *Bordering Tibetan languages: Making and marking languages in transnational High Asia*, 105–125. Amsterdam: Amsterdam University Press. doi: https://doi.org/10.5117/9789463725040_CH05
- Suzuki, Hiroyuki (2022c) The dialectal affiliation of Tibetic varieties in gYagrwa within Yunnan Tibetan. *Kyoto University Linguistic Research* 41: 43–68. doi: <https://doi.org/10.14989/281541>
- 鈴木博之 (2023a) 「カムチベット語索多西/改那西[Gadnagshod]方言の方言特徴と語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学(AALL)』17: 1–39. doi: <https://doi.org/10.15026/122474>
- 鈴木博之 (2023b) 「[書評]宋成、謝穎瑩、李大勤、李佐文(著)《西藏察隅松林語》北京：商務印書館、2019年、[10+272pp.]」『言語記述論集』15: 75–84. URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00004695/>
- 鈴木博之 (2023c) 「チャムド市マンカン県の言語事情——ラロン・マ語の存在とカムチベット語の方言区分に注目して」『日本西藏学会会報』69: 印刷中。

- 鈴木博之 (2023d) 「tsh / tʂ / dz — チベット系諸言語における歯-後部歯茎破擦音」池田巧編『シナ=チベット系諸言語の文法現象 7 : 音声と音韻』印刷中. 京都 : 京都大学人文科学研究所.
- Suzuki, Hiroyuki (2023) Shaping rGyalthangic: A historical account of Yunnan Tibetan. In Takumi Ikeda (ed.) *Grammatical phenomena in Sino-Tibetan languages 6: Historical linguistic studies and typology*, in press. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University.
- Suzuki, Hiroyuki and Sonam Wangmo (2016) Lhagang Choyu: A first look at its sociolinguistic status. *Studies in Asian Geolinguistics* II: 60–69. URI: https://publication.aa-ken.jp/sag2_rice_2016.pdf
- Suzuki, Hiroyuki and Sonam Wangmo (2017) *King's pig*: A story in Lhagang Tibetan with a grammatical analysis in a narrative mode. *Himalayan Linguistics* 16(2): 129–163. doi: <https://doi.org/10.5070/H916233598>
- Suzuki, Hiroyuki and Sonam Wangmo (2021) *White mDzomo*, a folktale in Lhagang Tibetan of Minyag Rabgang Kham. *Kyoto University Linguistic Research* 40: 39–63. doi: <https://doi.org/10.14989/269461>
- Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup, Niangwujia (Nyingbo-Gyal), Jixiancairang (Chaksham Tsering), Sonam Wangmo (2019) /ŋ/ in Amdo Tibetan: Descriptive and historical approaches. *Journal of the Phonetics Society of Japan* 23: 76–82. doi: https://doi.org/10.24467/onseikenkyu.23.0_76
- 鈴木博之、友珍[gYu-sgron] (2020) 「カムチベット語章納[nGramsna]方言の音声記述と語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』14: 265–304. doi: <https://doi.org/10.15026/94525>
- Tashi Nyima and Hiroyuki Suzuki (2019) Newly recognised languages in Chamdo: Geography, culture, history, and language. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42(1): 38–82. doi: <http://doi.org/10.1075/ltba.18004.nyi>
- Tournadre, Nicolas (2005) L'aire linguistique tibétaine et ses divers dialectes. *Lalies* 25: 7–56.
- Tournadre, Nicolas and Hiroyuki Suzuki (2023) *The Tibetic languages: An introduction to the family of languages derived from Old Tibetan* (with the collaboration of Xavier Becker and Alain Brucelle for the cartography). Villejuif: LACITO Publications.
- Tsering Samdrup and Hiroyuki Suzuki (2019) Humilifics in Mabzhi pastoralist speech of Amdo Tibetan. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42(2): 222–259. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.17008.sam>
- 張濟川 (2009) 《藏語詞族研究—古代藏族如何豐富發展他們的詞匯》北京 : 社會科學文獻出版社.
- 朱曉農 (2010) 《語音學》北京 : 商務印書館.
- Zou, Yuxia and Hiroyuki Suzuki (2022) Five folktales of Bragkhoglung Tibetan of Cone. *Himalayan Linguistics Archive* 11: 1–85. doi: <https://doi.org/10.5070/H90052025>

Characteristics of Tibetic Loanwords in the Songlin Language

Hiroyuki SUZUKI

minibutasan [at] gmail.com

Keywords: Songlin, Tibetic loanword, Khams, lexical form, sound correspondence, dialectology

Abstract

The Songlin language, spoken in rDzayul County of Tibet Autonomous Region, is one of the Tibeto-Burman languages identified as a non-Tibetic language in a recent study. Based on the material provided by the previous study, this article discusses the lexical forms and phonological correspondences of Tibetic loanwords. It first identifies sound correspondences between Tibetic loanwords in Songlin and Literary Tibetan, then demonstrates which Tibetic language(s) have proven sound correspondences, and finally examines the possibility of classifying the origins and strata of loans. The article concludes that the Tibetic loans were borrowed from several varieties of Khams Tibetan, based on the similarity of phonological and morphological features, although it was impossible to identify a single variety as the source of the loans.

(すずき・ひろゆき 京都大学)